

# 第1回真庭市生涯学習基本計画策定検討委員会 会議録

日時：令和3年7月13日（火）午後7時～8時40分

場所：真庭市役所本庁舎3階 会議室

出席者

委員：熊谷、池田、池田、大岩、金定、小林、坂手、長谷、原、真壁

参画団体（真庭学習塾）：家元、岩野、金佐、坂

オブザーバー：津山教育事務所塚崎課長（リモート参加）

1. 開 会 進行：佐山課長

2. 委嘱状交付

三ツ教育長より 代表して、坂手委員へ 委嘱状交付

3. あいさつ、自己紹介

（教育長）

改めまして、皆さんこんばんは。策定検討委員会を開催いたしましたところ、本当にお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。真庭市の教育の推進にご理解ご協力いただいていることお礼申し上げます。ありがとうございます。それから、今日は高校生の皆さんや大学生の皆さんも参加してくれています。テレビのモニターでは津山教育事務所生涯学習課の塚崎課長も参加していただいています。たくさんの方に参加していただき、策定検討委員会が開催できることをとても嬉しく思っています。詳細については、後に事務局から有ると思うので私の方からは、一つお話をさせていただきたいと思います。

先日、ある小学校に行ったんですね。真庭の食材を給食に出すというのでそこに行ったとき、掲示物を見ていたら6年生の女の子が今年の目標で「短所を活かす」って書いていたんです。校長先生にこれはどういう意味ですかと聞いたら、本人を呼んできてくれました。長所は分かるけど短所は皆隠すよねと聞くと。でも、それを出すことで、「私もそうだったんだ」「僕もそうだったんだ」という安心や対話が生まれる。対話が生まれる中で「実は私はこうしてるんだ」とって知り合うことで短所を活かせることに繋がるんじゃないかと。だから自分は隠さないようにしてるんだよ。と話をしてくれました。その日の給食はジビエが出ました。鳥獣害の短所をこれもまた給食で活かしてるのかと。ということで真庭のことを考えると真庭もいいところがいっぱいあります。短所もいっぱいあると思います。だから、皆で工夫をして喜びが生まれるチャンスじゃないかと。大きな施設はないし娯楽施設もないし、でも無いからこそ工夫して見出す喜びもあるんじゃないかなと思います。いろんな厳しいこともあります。人口も減っていつています。でも、その中でも豊かに誇りを持って生きていくのがこれからの時代に、真庭市に大事なんじゃないかと感じながらその時間を過ごしました。それを進めていくのはまさしく「人」です。この人が活躍できるのは学びであり活動だと、生涯学習の出番だと強く感じています。これからつな

がって学んで活動する。その中で自分の居場所や出番を活動する中で豊かになり、それが誇りになっていく。そんな真庭市であればいいなと願っています。今回の策定検討委員会は、そんな大雑把なことでは無く5年間の計画ということなので実効性のあるものを議論になるかと思いますが大きな見通しと実効性を担保した計画になっていけばいいなと思っています。その過程がお互いの学びになればと思っています。よろしくお願いいたします。

#### 委員自己紹介

#### 4. 役員（会長・副会長）の選出について

※事務局案の声が上がり、事務局案で了承

（会長） 熊谷眞之輔 岡山大学大学院教育学研究科教授

（副会長） 池田浩規 県立勝山高等学校 校長

#### 5. 協議事項 司会進行：熊谷会長

##### （1）新・基本計画策定に向けての手順等の確認について

- ・事務局より説明
- ・スケジュール等の確認及び承認

##### （2）従来計画の振り返りについて

- ・事務局より説明

#### （会長）

従来の計画の振り返りということで、事務局より説明がありました。このことに関して何かご意見がありますでしょうか。振り返りについて説明をしてもらいましたが、これに関連したことで、皆様方、真庭市に住まわれていたり、真庭市にお勤めをされていたりして、生涯学習に関連する取組に気づいたりしたことやこんなところが課題であるとか、この辺はすごく頑張っているとかがありましたらご意見をお願いします。

#### （委員）

「地域づくり活動ボランティアの育成」というところですが、私は元地域おこし協力隊で、こういう地域づくり活動をどういうふうにしていくか考えてやっていたのですが、終わって、今も似たような活動をしています。余りできていないという評価で実施状況が「×」になっているのは、どういう評価で、どういうことを基礎情報として得られて、こういう判断をされたのか、教えていただけたらと思います。

#### （事務局）

先ほどおっしゃっていただいたとおりで、行政側として活動が十分把握ができていない、

また、地域自主組織等、地域団体というのがありますが、次の担い手になるような方々の人材育成等に寄与できなかった。地域との関係性が持てないことがあったという反省を踏まえての評価です。生涯学習の範ちゅうでだけではなく、交流定住推進課というところもできています。新たなコミュニティの創設ですとか、移住をされた方との新しいコミュニティもできていますので、そういったところとの連携も不十分であったということから、こういう評価に至っております。

(委員)

地域づくり活動も新しくいろんな方が入られた人がいて、そういう動きがあれば、共有させていただきたいと思います。

(委員)

私も同じところが引っかかりまして、真庭市を一つで捉えようとするのが難しいと思うのですが、地域づくりを行うボランティアは、地域によっては活発に動いている地域もあると思うので、それを一まとめに「×」と表現されると、ちょっと寂しいなと思ってしまいました。

(会長)

地域づくりということになると本当に広い、多様な地域づくりの担い手、しかも真庭市の広さもありますし、一つの項目だけで判断するのはなかなか難しいと思いますので、先ほど事務局からもありましたように、いろんな物差しといいますか、いろんな視点を持って、この地域づくりの育成というものを捉えてもらって判断してもらいたいなということです。

その他、学校と地域をつなぐコーディネーター、あるいは地域学校協働本部の活動などを通じて、北房だけになるのかもしれませんが、そういうお仕事の関係の中で、気づいたりだとか、こういう所が課題だなと、この辺はできているけど、されていることで感じていることがあれば、お話しいただければと思います。

(委員)

私は北房地区の地域学校協働本部のコーディネーターとして4年目ですが、中和地区は、もっと素晴らしい活動があり、本当に地域が盛り上げていて、学校の方とも連携した素晴らしい活動ができていると思っています。北房も4年目ですが、徐々に活動が広がってきましたが、途中でコロナの影響で、学校の方から地域につなげるのをストップされて、思い切った活動ができていない現状です。そういうのを含めてこちらの評価も、もしかしたらコロナの影響もあるのではないかという視点で見させてもらいました。本当はやりたいたいけど、交流とか生涯学習とか、人と人とのつながりだと思うので、思い切ったことができないので、ここ2・3年、皆さん悩んでおられるのは一緒かなと思います。北房とし

ては、コロナが収まったら、もっと積極的に徐々にやっていきたいんですけど、今はできないからこそできることを見つけてやっていく状態です。

(会長)

まさに今コロナ禍ですから難しい面もあります。その分子どもたちとあれをしたいとか、いろんな計画を考えて作るそういったことがじっくりできるんじゃないかなと思います。その他ご意見は。

(委員)

情報提供ですが、9ページの歴史の所ですが、歴史講座・史跡探索会。真庭出身で岡山県立博物館のナンバー3の人物がおります。岡山県史、今は津山市史の編纂など歴史に関してはナンバー1だと思います。是非何かありましたらおつなぎします。

(委員)

細かいことになりますが、例えば、津黒生き物ふれあいの里で観察会とか頻繁にされていますけど、言えばそこは専門的な研究という部門を大切にしていけないところだと思います。しかし、観察会を頻繁に行わなければならないようになっていて、自転車操業的な感じに思えます。とにかく次の観察会のために準備するみたいな、そういう部分が大きくて、結構自分でこういう昆虫を研究してみたいとか、鳥を研究してみたいとか思ってきた人たちがなかなか定着しづらい、そういった専門的な分野も、担当する施設であれば、専門的なことを活かしてあげたい。これは、ある有識者から聞いた話の受け売りですが、そういう専門分野を極めたい人、人材がやってくる所はそれを活かしてあげるような方法も必要なのではないかなというような気がします。

(会長)

新しいものを作っていくには、前回のものをしっかり振り返って行って、この辺はしっかりできているところ、ここはもっと続けてやっていけないということもありますので、従来の計画の振り返りということで、日頃から感じたりとか、今日の実施状況を見たことを踏まえて、お気づきのことがあったらお願いします。

(委員)

真庭市内に住んでいますが、広報誌等が届かないですし、光ネットワークも来てなくて、ここに載っている啓発とか学習情報の提供という意味では、なかなかキャッチしにくい方が多いというか、その人の状況とか、家庭の状況によって届けにくいと感じました。

(会長)

生涯学習の情報提供をしていくことも大切です。その他、家庭教育や親への支援という

ことに関して、真庭市の取組で、何かありますか。

(委員)

ずっと気になっていることは、子育てについて相談ができる環境がもう少し欲しいと思いました。学校も、地域も大切ですが、やっぱり家庭がしっかりしていないと、地域や学校につながろうと思っても、そこは難しい現実があります。親御さんが子育てにしっかり集中できるような環境づくりが必要だと思います。家庭教育支援チームというのを知らなかったですし、皆さん、最初はどこに相談すればいいのかわからなかった。いろんな部分で周知ができてないのではないかと思います。回覧板が来ても見逃してしまう。周知に関しては話し合った方がいいのかなと思いました。

(会長)

生涯学習は、義務や強制ではないので、情報ということに関して、常にアンテナを張って、どんどん学んでいこうとする人と、気づかなかつたら関わらない人とで非常に差が広がってしまうという問題もあります。そういった所で生涯学習の情報提供をしていく視点がいるということです。

(委員)

質問というか確認ですが、生涯学習というのはそもそも真庭市民全員をターゲットにしたものという認識で合っていますか。こういう対応を見させていただいて、結構いろんな種類があるので、どこに向けたものかとか、どう絞って、何が必要なのか、考えづらいなと今思っていて、基本的には、皆さんが対象になっている、年齢にかかわらず対象になっているという認識でいいのかなと確認をさせていただきます。

(会長)

とてもいい質問だと思います。おっしゃるとおり生涯学習は子どもから大人、そして高齢者までが対象です。今日高校生が来ていますが、高校生は生涯学習は、大人だとかおじいちゃんおばあちゃんなど高齢者の学びだから自分たちと関係ないと思っているかもしれませんが、そうじゃなく、生涯学習は学校教育も含めて生涯学習です。だから、小学生や中学生、高校生の学びも生涯学習に入ってきます。もちろんそれは、乳幼児、またおなかにいるときに、お母さんとお父さんが学んでいるというところから、もう生涯学習が始まっている。「ゆりかごから墓場まで」という風な言い方もしますけれど、そうなってくると生涯学習の範囲って、ものすごく広いですよ。おっしゃるとおり。だからここは皆さん方と考えていけないといけないんです。すべてをターゲットにしているからどうしても生涯学習の推進計画って、総花的にどこにでもいい顔をする施策とか計画を作っていくようになりがちです。それはすべての人たちがターゲットですから、もちろん大切です。真庭市の生涯学習の範囲の中で、さまざまな取組をしていくことは大切ですが、さっき言

ったようにものすごく広いので、どこかこの計画の中で、我々が考えながら、ここがポイントだぞと、重点的に組んでいきたいというふうな強弱をつけていかないと、非常にこの生涯学習で陥りやすいのは、すべての世代の人にいろんなことを提供するといったことになってしまうと、どこが特色かなという風なことになってしまいがちです。ですから、このあたりを皆さん方と話し合いながら、私がなぜ振り返りということを時間を掛けているかということ、何が課題か、過去5年、これからの5年間の間にどこを特に生涯学習で真庭市がしっかり力を入れて欲しいかなというところを少し強弱をつけて考えていかないと、こうして気になったような、平均的で総花的でどこにもいい顔したような、悪いとは言いませんけど、そういう計画になってしまう。それは、メリハリをつけて作っていききたいなと自分自身思っています。皆さん方、この過去5年、これからの5年で真庭市も、ここに生涯学習力を入れようというところを是非説いていけたらなと思います。その他、何かありましたらお願いします。

#### (委員)

真庭市はどちらかということ、柔道に関しては、小さい子から大人まで、結構活発にやられている所だと思っています。しかし、私の地元は、全然で、大人はできなく、子どもだけ。大人になってもできる場所があるという真庭の方が逆に進んでいるなという印象があります。スポーツってコロナ禍の中でなかなかできにくくなった。スポーツクラブさえ行けなくなったような環境だったので、この5年の中でどうやってコロナと付き合いながらも、オンラインでしか活動しにくくなった中で、どうやって健康を維持していくのかとか。そういったところのケアとか、逆に必要なのかなとか、社会生活の中で、時代が一機にコロナで変わったというのがありますので、どこに居ても誰でも学べるような環境を整えたりとか、今までは、情報格差とか、地域格差が比例していたところもあったと思いますが、どんどんそういうのもなくなって、情報をどこに居ても、知ろうと思えば知り得る、アンテナを張っていればそれを自分が拾うというように、そういった意味では情報はできるだけ幅広く発信した方がいいのかなと思います。求める人が拾えるような環境を作った方がいいのかなとちょっと思いました。スポーツに関してもやりたいことが、あえてできることが狭まれると思うんですけども、健康増進とか、健康年齢とか、そういったものを求められている時代なので、どうやったら健康維持できるのか、提供していくか、システムと健康みたいなものをスポーツと混ぜ合わせてみるのもいいのかなと思います。

#### (会長)

振り返るだけではなく、これからの5年間を、先ほどのご指摘もあったように、計画をどこに力を入れて重点的に入れたらいいかなということに関して、少しこの後ご意見をただけたらなと思います。皆さん方が取組を通して、生涯学習の方をこのように自分自身捉えていて考えていて、大切にしていきたいという、これからの5年間、真庭市の生涯学習をここを重視していったらいいじゃないかなというところをご意見を頂戴できたら

と思います。

(委員)

今、子どもが少なくなっていて、何かをしようと思ってもなかなか不自由でできない部分も結構あると思います。今年、真庭市の方では、バイオマスの学習を全部の学校ですることによってバイオマスの学習をしました。聞いてはいるけど実際どんなものか知らない子どもがほとんどですよ。市の方針として、学ばせようということで、学ばせられるんだけど、行ってみたら、なるほどなということで知らなかったことを知る。いくらか世界が広がると思うんです。そんなことをきっかけにいろんな所への関心が広がっていけばいいなと思いました。

子どもは少ないですが、子どもへのアプローチは必要なのかなと思います。地域のことをまず知るということでやっていかないといけないなと思います。同時に、いい材料がたくさんあるんだけど、我々学校現場としても、子どもたちに伝える努力が足りないのかなと思うことがありました。真庭でもデジタルタブレットで真庭の文化財等、紹介するものがあるんですけども、詳細な内容で資料としても教材としても使えるようなものなんだけど、なかなかそれを活用できていないことがあります。その辺は学校側、教員側も、関心を持って使っていく余裕がないという現状もあります。いいものはたくさんあるので、それをいかに子どもに伝えていくのかというのは、親に伝えていくということも大事になってくると思います。

私事ですが、エスパスの管弦楽団に所属してまして、8月に演奏会があるんですが、チラシがこの間回っていて、そこに子ども50人無料招待というのが書いてあって、じゃあ実際にどのくらいの子が足を運んでくれるのかといったときに、関心のある子は数人来てくれるんだろうけれども、やっている本人たちも宣伝が足りないのかなということもあります。官民がいろんな所でいいことをしているけど、それをなかなか全体として、子どもたちに届いていないという現状があるのかなと思います。学校ではバイオマスとかやってみる方が効果が高いと思いますので、なんとか子どもや親のところにアプローチしていけたらいいなと思いました。

(会長)

とても大切なご指摘ではないかなと思います。私も一つこれからの生涯学習の中で「学校と家庭と地域の連携・協働」が大きなキーワードの一つではないかなと思っています。文科省の方も地域と供にある学校づくりと、地域の中での学校づくりを進めて行きなさいと、真庭市の場合は、「SDGs」。これも大切なキーワードになると思います。そういう視点から、地域等、抱えながら子どもたちを育ていこうと、大切なことです。

生涯学習のアンテナということと関連するんですが、実は、余りこういった研究はないんですが、「何で大人になって生涯学習をしないか」というのを調査した研究があるんです。そうすると皆さん、どういう結果になったと思いますか。高等学校を出て、生涯学習をす

る人の多くは、学歴が高くて、高収入な人ほど、モバイルケーションなのです。つまり、教育の重要性に気づいて、学びって大切だなと思っている人は、高校や大学を卒業しても、モバイルケーション、自分自身も学ぶし、その子どもも学ぶということになります。

でも、生涯学習って学校の勉強なんでしょと、これはまさに生涯学習の誤解なんです。そういう方は、生涯学習からは逃げています。忌避している。だから逆に生涯学習することによって格差が広がるんです。何でそんな格差が広がっていくかという、そういう人たちを調べていくと、学校の時にいい思い出がない。こういう研究結果が出ている。学校のいい思い出がない子が、どうしても障害となって生涯学習といっても、学校なんでしょと、生涯学習を進めていくためには、やっぱり学校教育が重要なんですよね。学び続ける、学びって楽しいなど。学ぶ力というのは、学校教育のうちに、これから人生100年ということですから、まさに、学校教育の重要性というのは強調しすぎても足りないと思っています。

それから学校のための地域づくりと、また、学校を核とした地域づくり、学校という場を舞台に地域づくりをしていくと。真庭市の方も、旧遷喬小学校の方でNPOがお化け屋敷などの取組もしていますね。こんなことはまさに学校ということをも舞台にした地域づくり。学校というのはコミュニティの大切な場です。子どもを円にして大人がつながるということなので、学校を舞台に地域づくりをしていこうと。これも大切なことではないかなと思います。ご指摘のような、学校と地域の協働というのは、これからの生涯学習の大切な要素です。他に何か。

(委員)

いろいろ話を聞いて、幅広い取組やイベントがたくさんあって、されていると思います。しかし、情報を収集して、そこで行こうとなると、次のハードルがあるというか、実際に足を運ぶというと、ちょっとなかなか一歩進まないなということが多いのではと、自分としても思います。そのためには、生涯学習しましょうというよりかは、楽しそうなので、自分の興味のあるなというものに行き、動機付けになって、その結果、実は生涯学習になっているんだなとなるのが、「生涯学習しましょう」というところから入らなくてもいいのかなと思います。興味と企画が合致しているもので気軽に行きたいなと思ってもらえるような働きかけというのが、いいのかなと思います。

(会長)

そうですね。それも大切なことです。学ぶことが楽しいということが大切な要素になっていると思います。他にありますか。

(委員)

話を伺っていて、私も同じことを思っていて、生涯学習しましょうって言われても、避けていく人は避けていくので、今楽しいイベントをやっている民間団体とかと、何か連

携をして、勧誘というか、こういうのがあるんだよというような、わかるような交流会でもいいですし、チラシを置くとかでもいいですし、何かそういうアプローチの仕方とかも発展できたらいいのかなと、すぐには難しいと思んですけども。私は、高校まで真庭に居て、外に出て、また来てという流れですが、戻ってきて市役所に行くまでに、全然知らなかったですね真庭のことを。真庭の人が何をやっているのか。狭い状態で、コミュニティがかたまっている行われているので、生涯学習も結構同じかなという印象を受けるので、それぞれやっているところが、横のつながりを広げていけたら、何か面白いことが5年間掛けてできるのではないかなと思いました。

(会長)

そういうご指摘も大切です。他にありますか。

(委員)

各地で、地域おこしとか関わって見てきた経験からいうと、本当に楽しく学ぶというか、楽しみながら活動するというのが一番長続きがするし、広がっていくことだと思うんです。例えば、子育て支援のグループ、同じようなことをしているんだけど、片方はすごい高い理想を持ってストイックに活動していく。片方は、笑いながら適当にやっていて、だけどどっちが長続きするし広がりがあるかという、笑いながらやっていくグループの方が、どんどん大きくなっていく。だからその辺が、キーワードが一つあるとしたら、楽しく学ぶというか、楽しく活動していく。それが一番基本になってくるのかなというような気がします。

(会長)

これも大切なご指摘ではないかと思えます。私も、生涯学習って、もちろん楽しく学ぶ、学ぶ喜びや楽しみということを経験時代に味わっておかないと、なかなか一生懸命でいくということは難しいなと、学校教育が重要なんだという話をしますけど。

もう一つ、行政が支え推進する生涯学習で難しい課題があるんですよ。それはどういうことかという、生涯学習って、確かに個人の趣味や教養やスポーツを学ぶということのを促していくことが大切ですが、でもそれって、どこまで行政が支援すべきかなと。そういった問題にもなる。日本がお金があって、有り余っている時代だったら、公民館や図書館をいっぱい作って、どんどん支援をすればいいということになるけど、皆さんご存じのとおりそういう時代ではない。だから楽しい趣味・スポーツだけの生涯学習を行政がどこまで支援すべきか。それって個人でやってくれたらいいんじゃないか。という風な行政の問題も出てくる訳です。

このあたりのところを実は皆さん、真庭市の生涯学習基本計画の第3次の1ページをご覧ください。ここに「生涯学習とは」というところに。生涯学習の捉え方って、真庭市の基本計画もしっかり捉えていると思えます。例えば、生涯学習とはの2段目、「生涯学習は、

自己の趣味や教養を高める個人充実型や職業などを通じて社会的に自己実現を図るキャリア形成型、学習成果を活用して地域づくりに寄与する社会還元型に分けられます。そして、生涯学習の取組を通じて、知の循環型社会の構築が求められています。」まさしく生涯学習って、個人の趣味だとか充実を図るとかということもあるし、自分が職業関係でどんどんキャリアアップしたり職業関連でというようなキャリア型の学びも生涯学習ですね。

そして、学びの成果を還元していったり、成果を活用していく。こういったことも生涯学習です。生涯学習の内容を趣味・教養ということだけに狭めて考えるということも、また生涯学習を狭く捉えてしまう危険性があるようになる。私は、ちょっと僭越ながら指摘をさせてもらおうと、真庭市の生涯学習の取組はどちらかということ、こういうように分けられているんだけど、個人充実型の学習提供が中心だったのではないかなと。これはもちろんしていく必要があるんだけど、その一方で、やっぱり、それ以外の生涯学習の支援もしていくことも大切ではないかなと。この提起を踏まえてみて思うところです。

なかなか生涯学習って難しいですね。公民館でも、趣味・教養の講座を展開していったら、人が集まってくれるんですよ。外国語だとかスポーツだとか。それって、一般の公民館以外のカルチャーセンターとか、民間のいろんな講座があるじゃないかと。公民館は市民の税金で作られているんだから、その趣味・教養のことだけやっていいのっていう部分が、一方で批判がある。真庭市はそうでは無いと思いますが、もう公民館は、趣味・教養ばかりしているんだったら、カルチャーセンターとか他にいろんな施設があるんで、もう公民館は貸し館にすればいいじゃないかと。職員を撤退させて、そこを自由に学習サークルとして使ってもらっていいんじゃないかと、そういう公民館のコミュニティセンター化、そういう自治体も増えてきている。そうなってくるともう公民館じゃなくて貸し館なんですね。

だから公民館は趣味・教養だけではなく、もう一つ地域づくりであったり、これは学ぶべきこと。例えば、男女共同参画だとか、人権だとか、災害などの防災教育だとか、そうした趣味・教養じゃない学習すべき、こういう課題。必要課題についてもアプローチしていかないと、公民館の存在意義がなくなる。カルチャーセンターでいいじゃないかということになってくるでしょう。

人が欲しいものを提供していけばいいのであれば、公民館の講座を作るのは簡単なんです。今韓流ブームで、韓国の映画がはやっていると、公民館に韓国語講座を入れようかと。ブームが去ったらやめればいいじゃないかと。講座を作っていくんだったら簡単なんですけれども。もう一方で、これって行政でやることだから趣味・教養だけでいいのと。人が少なくても、ちゃんと学ぶべき、伝えるべき学習内容であるんじゃない。これが難しいところなんですよ。ただ単にニーズに沿えばいいのじゃなく、だから真庭市の生涯学習基本計画も、趣味・教養型で楽しいと地域の人が喜んでくれたら、それを提供していくだけではなく。真庭市民として、岡山県民としてこういうことは学んでほしいよねと。学ぶだけではなく成果を活用したり、還元したりしてほしい訳です。というような所も考えて計画を作っていくかないといけないことが行政の生涯学習の支援の難しいところです。答

えがあるというわけではないですよ。

高校生のみなさん、今、総合的な探究の時間ということで。まさしくこの学びは答えがあるわけではない。数学や理科のように答えがあり割り切れる問題じゃない。でも、みんなで知恵を絞りながら、こんなものを作っていこうとか、最適な答えを出していこうというところが大切です。そういう場面を大人の人がこういう風に知恵を絞って考えているという所を高校生の人が見るとするのは、とってもいいことだなと思います。まさに総合的な探求の時間も答えが一つだけじゃないよね。みんなで考え解決していく。同じことを今、我々大人も考えているということです。今日は私の方で問題提起をさせていただきました。生涯学習を計画するというのは難しい。今日は一回目ですので、生涯学習で皆さんが大切にしたいこと、真庭市で5年、ここをこう重視して欲しいことをまたご意見をいただけたらと思います。でも、趣味・教養型の個人の充実がだめっていうわけではありませんよ。それはもちろん支援しなければいけない。でもそれだけに偏るというのもいけない。というところを言いたいわけです。始まったばかりなので、また次回までに資料を読んでいただいて、真庭市でこんなことが大切であるとういうことを考えておいていただけたらなと思います。最後に何か言い残したことがありますか。

(委員)

暮らしの中に学びがある状態を作ることが一番いいような気がしています。例えば、私が尊敬するNPO法人なんかは、手間が子どもや大人を成長させてきたんだと、家庭の暮らしの中に手間がなくなってきたことが、子どもたちとか家庭教育の中で、コミュニケーションが生まれにくくなっているのが原因ではないかと。それを生涯学習の講座からどうアプローチするか補助するのかなというのが、難しいことがあるんですが、何か暮らしの技を何か伝承していくことが、各家庭教育において、つながっていくような取組がないかと。非常に恐縮なんですけど、私は民間で体験プログラムを開発しているんですが、林業関係のプログラムをやって欲しいという声は、毎年必ずあります。ところが林業というのが、大型機械化することによって、子どもたちが入ることができないものになっているし、子どもたちが森の中には入れなくなっています。暮らしも、その森から出てくるものをほとんど使用しなくても成立するようになってしまっていて、なにかそういう所に鍵があるんじゃないかなと思います。個人的にですが、林業就業者支援事業というので、今年厚生労働省の事業を受けて、林業をやりたいという人たち向けの講座というよりも職業訓練を真庭市で開催しようと考えています。そういうものもおそらく生涯学習に含まれていると。職業訓練というと、なんか、多角的にやっていったらいいなと思っています。

あともう一つだけ、地域教材というものも、展覧会みたいなものが皆さんとできたらすごくいいのかなと思っています。真庭市も大きいので、いろいろな地域の学校を中心にした、学びの体制づくりであったりとか、あるいはこんなものを教材として地域につながった例であったりとか、そういうものを共有するようなことができたらいいなと思います。教育魅力コーディネーターという、郷と書く方の教育のコーディネーターをさせてい

ただいて、そんな意味でもそんなことができたらいいなと思いました。

5年間でどこに強みを、強調しつつ、大きな生涯学習計画をどこに持って行くか、どこに絞り込んでいくのかというのは、また私も宿題にさせていただいて、次回までに考えてきますけど、雑多な話ですが、皆さんのお話を聞いて思いました。明日、まにわ市民大学を企画する場に、同じように蒜山高校生たちがうちにインターシップとして来てくれているんですけど、今日は久世周辺を津山商業の子たちと一緒に回ったんですが、学校教育に訴求すると、子どもたちに伝わることは大きいなと思うもの、一番はじめに戻りますけれど、地域づくりの若者たちや老若男女が、しっかり居る状態でこそ学校教育に入っていくべきだと、僕は思っていて、要するに子どもたちだけに背負わせるのではなくて、地域課題の解決とか地域の魅力というのはみんなで取り組むべきものだと思います。

(会長)

ありがとうございます。宿題の成果に期待をしたいと思っています。とってもいい指摘だったと思います。宿題といたので気が重くなったのかも知れませんが、そういうことではなくて、また、思いついたことを、暮らしの中に学びがあるということですから、皆さん生活の中で、一市民として気づいたことをお話ししてもらえたらなと、それを整理したりして、位置づけたりするのは、私の役割かなと思って、私の方がハードルを上げすぎたかもしれませんが、皆さんお気づきの点は、また次回に出していただけたらなと思っています。

## 6. その他

## 7. 閉会

(副会長)

長時間ご苦勞様でした。久世駅を降りて国道181号を渡ると右側に寺があって銅像が建ってます。これは早川正紀という江戸時代に名を知られた名代官の像なんです。子どもの頃から誰なんじゃろと思ってましたが彼が残した典武館と典力館があります。典武館は今でも剣道、柔道としっかり活動してますが典力館はここにあったという看板だけが残ってます。二つを作られてというのが我々後世に関する大きな史跡を残されてると。あるとき生きるということはどういうこと？と聞かれ、それは酸素を吸って二酸化炭素を出すんじゃと。なんなんじゃろと言ってたら「生きるってことは死ぬことじゃ」って言った先輩がいました。僕の生きることのイメージは、小さい丘があるんですよ。で丘の方は見えないんです。で見えないから行ってみるんです。それが僕の旅の原点なんですけど、更にその丘を超えたら何があると思いますか。もう1つ丘があるんですよ。結局それが人生なのかなと思いながら、死ぬということは生涯を楽しく生きていくための1つの方法だと思います。今日は本当に勉強になりました。しっかり勉強して備えようと思います。皆さんお疲れ様でした。

## 第2回真庭市生涯学習基本計画策定検討委員会 会議録

日時：令和3年9月30日（火）午後7時～9時

場所：真庭市役所本庁舎3階 会議室

出席者

委員：池田、池田、小林、長谷、原

リモート参加：熊谷、大岩、金定、真壁

参画団体（真庭学習塾）：家元、岩野、金佐、坂、宮田

オブザーバー：津山教育事務所塚崎課長（リモート参加）

### 1. 開 会 進行：佐山課長

### 2. あいさつ 熊谷会長挨拶

皆さんこんばんは。今日は残念ながらリモートでの参加となります。コロナも落ち着いてきたんですけどまだ大学等もなかなか厳しいですので、残念ながらリモートで参加させていただきます。今日は平田オリザ先生から貴重な話を伺えるということで楽しみにしております。おそらく先生の話の中にはまちづくり、学習、学びとですね、今日の生涯学習基本計画を検討していく上で大変参考になると思いますので、先生の話聞いてしっかり聞いて、議論に反映していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 基調講演

※別紙参照

### 4. 協議事項 司会進行：熊谷会長

#### （1）真庭市生涯学習基本計画のめざす姿と目標について

・事務局より説明

（会長）

只今事務局から説明がありました。上位計画の理念や基本目標、真庭市の現状や課題を考慮して、目指す姿と目標の案を作成されています。これについてご意見等がございましたらよろしくお願いいたします。

（委員）

気になったというか、質問に近いんですが、この基本計画、5年計画、何年か通して行こうということだと思んですが、目標の部分で、最終的にどうなっていたらこれできたねという風にたどり着くのかなと。基本計画、目標自体分かりやすいなと思ったんですけど、仕組み作りというところは、どうなっている仕組みだったら、正解なのか。正解

というのは無いと思うんですけど、たとえば、人が増えていたらオッケーだとか、そういうのがあるのかなと、ちょっと聞いてみたいです。

(会長)

はい、ありがとうございます。その疑問はよく分かります。事務局の方、まず計画のスパンといいますか、そのあたりを含めて、少し回答いただけますでしょうか。

(事務局)

この計画自体は5カ年ということで、通常5年計画というのはい多いんですが、総合計画や教育振興基本計画が上位計画としてあります。その中で、基本的なこうあるべきだとか、こうあってほしいという辺りの文言が概ねここに書き記しております。ここを目標にと、ということになっていくんですけども、その中で、多彩な真庭の豊かな生活ですとか、お互いを認め合うですとか、持続可能な社会をつくっていくとか、お互いのライフスタイルを応援しあうまちとか、個人が大いに輝ける、そういった社会であるということが、5年後非常に大事であると思っています。

それと、学び続けることで、単なる学びではなくて、生かして社会に貢献できる、もしくは、その学んだことで活躍できる社会。そういったことで、豊かさを実感できる、そういった社会が5年後にできていれば、いいだろうということをイメージして、こちらの計画づくりをしております。お答えになったかどうか解りませんが、そんなイメージで、こちらの大きな骨組みを示させていただいております。

(会長)

ありがとうございました。先ほどのご質問に対してはですね。おっしゃることがよく分かります。ただね、理念だとか目指す姿っていうのは、これは5年後でですね、こんな形にしたいんだ、こんな風に目指したいんだっていうことなんで、5年後に達成することは、全部がというのはなかなか難しいかもしれません。折角こういった理念だとか目指す姿は、絶えずずっと、追い求めていくものだというように思っています。ですから、どうしても大きい目標になると。ビジョンになってくると思います。ただ、取組がどこまで達成できたかということが分かりにくいじゃないかと。おっしゃるとおりだと思います。だからこそこの後に、目標がきて、この後に具体的な取組やもっと小さい目標みたいなものが出て、その目標が、あるいは数値化された目標だとかが見えてくると、先ほどの質問にあったように、5年後、ここの取組が、どうなったかというときにチェックする時も、指標になるんじゃないかなと思います。理念や目指す姿というのはちょっと大きいことかもしれません。この後の目標や下部の目標というところで、数値だけで計れないというところもあるんですけど、最近教育の世界にも、いろいろ数値化を求める声が入っています。この声に対しては、教育だから数値化は無理だっていうのはなかなか言えないと思うんですけど、私は数値と量的なデータと質的なデータを合わせながら、下部の目標等で設定して、その目

標が達成できたかどうかはかるときにも、物差しにしたらどうかなと思っています。

今の理念や目指す姿は少し大きい。もう少し、この後具体的な取組を議論することになると思います。じゃこの取組がうまくいったかどうか、ということをチェックする指標とか下部の目標とかは、我々で考えていけばいいんじゃないかと思えます。

おっしゃるとおり、そういうことについては、もう少し具体的な取組みたいなものがこれから話し合っ、考えてアイデアが出てくると思う。それについてまた達成できるかどうかを見ていくようにしていくということはどうかなと思えます。

今日お話をしているのは、その前の段階の大きい理念だとか目指す姿というところなんで、少し抽象的で、それじゃ達成できたか分からないじゃないかと思われるのは、感じるかもしれません。この後、おっしゃるご指摘していただいたようなことを検討していかないといけないんじゃないかなと思っています。ありがとうございます。

その他、そもそもとかというようなことの質問でもかまいません。ここって我々の目指す理念や目指す姿っていうところなんで、ある程度少し5年後には、達成できないかもしれないけど、やっぱりずっと掲げておかないといけない理念で目指すところなんだと。でもこの大きいところというのは、我々が共有していないと、そこもちょっと違うよということだったら、この後具体的なところに入っていきませんので、ここは皆さんと共有したいと思っています。事務局の方で真庭市の上位計画に合わせてですね、こんな理念や目指す姿を考えてみた、というところなんで、皆さん方の率直なご意見・ご質問をいただけたらなと思えます。

(委員)

生涯学習が幅広くすべての人にというところを見て、真庭に特化したというか、真庭の特長、真庭市だからできる目標みたいなものがどこかにあればいいのかなと思いました。例えば、2番目の真庭を愛する心を育みというところで、地域に特化したと思うんですけど、他のまちでも立てることができるような目標のように感じたので、先ほどの豊岡の例だったらアートに特化しますというように、分かりやすかったのですけれども、真庭市だから、例えば、思いつくのはバイオマスだとか、特色のある取組もあると思うので、何かそういった色があると他の地域と違う真庭の魅力というのを教育にいかせるのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。とても大切なご指摘じゃないかなと思えます。理念とか目指す姿というのは、少し抽象的で、大きい目指すものなんですけれども、もう少し真庭の色といいますかね、そういうものを真庭ならではというところも出せていけたらいいかなと、具体的な目標だとか、取組というところで真庭市らしさというのは出せるかもしれませんけれど、よりやっぱり大きいところで、もう少し真庭らしさを出せたらというご意見じゃないかなと思えますが、この辺り事務局はどのように今のご質問には捉えていますか。

(事務局)

ありがとうございます。真庭らしさという所では、後ほどこちらのキーワードをご用意させていただいているんですが、教育を核としたキャリア教育ですとか、郷育と書いて「きょういく」と読むんですけれども、自然、産業ですとか文化ですとか芸術、いろんな歴史等も含めて、やはり真庭の特長というものがいろいろあるかと思います。そういったものから、そこをフィールドワークにして、いろんなことを体験する、学ぶということがとても大事なかなと思っていますので、非常にありがたいご指摘ですし、それを施策として反映できたらなと思っています。ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございます。私も先ほど話しましたが、施策のところでは真庭らしさを出していくということなんで、言い方は少し悪いかもしれませんが、この理念と目指す姿だけを見ると、他の自治体と比べてもですね、結局どこも同じじゃないかという風のようなことを指摘されると、確かに弱いなと、質問を受けて思ったりもします。ですから今日はですね、だいたいの理念や目指す姿というのは共有したいところなんです。でももう少しだけ、文言とか、辺りはですね、引き続き検討していきたいなと思っています。

皆さん方もご意見等いただけたらと思うんですけれども、真庭らしさというところという理念や目指す姿というところとかにも少し反映してほしいというご意見だと思います。これに絡んで何か、他の方ご意見とかご質問とかありますか。あるいはこんな風にちょっと変えてみると、真庭らしさが出てくるよなんかもあってもありがたいと思うんですけれども、どうでしょうか。

(委員)

「地域課題の解決」という言葉を私たちはよく使うんですけれど、「価値を創造する」という言葉の方が私は好みで、真庭らしさといったときに、受け身的に、前の世代から積み重なってきた課題を解決していくんだということよりも、未来を見据えて新しい価値をつくっていくんだとか、よく使うようにしています。

結構具体的な話になると、ゴミ拾いを子どもたちにさせるのはどうなのかという話が出てきたりするんですよね。あれは拾うべきなのは大人なんですよ。僕も分かっているんですよ。ただ同時に環境の大切さとかを伝える、子どもたちができる範囲の参画のやり方として、ゴミ拾いを一緒にするということになると思うんですけれど、あれも課題を解決するのは、本来は大人なんです。価値を創造していくことが、私はすごい重要なんじゃないかという風に勝手ながら思いました。以上です。

(会長)

ありがたい、大変貴重なご意見じゃないかなと思いました。本当にね、こういう研究だとか、どこの世界でも、課題を解決するという風なことも、もちろん重要なんですけれど

も、その課題を自分たちでつくって、見つけていくだとか、あるいは価値を様々な違った異質なストックを価値を共有したり、想像していくということもより重要だと、そういう風にスイッチバックのおっしゃるように、そういう意味では、地域課題を解決という要件よりも、様々な方と触れあいながら、共存しながら、価値を創造していくというような点というのは、理念や目指す姿という点では、ふさわしいことなのかもしれませんね。この辺り、他の皆さんいかがでしょうか。

(委員)

誰もが安心して学べるというところ、格差というところから、本当に広い年代層から立場の人というのを想定しておられるんだろうなということは感じるんですが、今後担っていくのはやはり若い世代ではないかなと思います。「地域とともにある学校づくり」というのが、真ん中のところにあるんですけども、この辺で若い世代を大事にするというのは、現れている気もするんですが、「地域とともにある学校づくり」という言葉は、わりと学校現場では、コミュニティ・スクールの関係でよく使われている言葉だなと思います。いくらもう少し、子どもとか若い世代っていう言葉をこの中に入れていくのもいいのかなと思います。たまたま昨日、社会教育委員会があって、そこで話題になっていたのは、やはりその社会教育委員さんたちが、若い世代にいかにかアプローチするかと、いう辺りをすごく考えていると実感して分かりました。いくらかそういう風な子ども若い世代辺りをもう少し文言に入ってもいいのかなと思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございます。先ほどの価値の共有や創造を含めて、今の先生のご意見を踏まえて事務局の方、なにかお気づきの点がありますか。

(事務局)

おっしゃるとおりだなと思いながらお聞きしていたんですけども、やはりこの場に高校生の皆さんが来てくれている、今日、平田オリザ先生のお話も、まさしくそういうところでして、いかに若い人たちに真庭について注目してもらえるか、やはりいいまちだなと思ってもらえるか、そういうおしゃれなまちと、センスのいいまち。センスを磨くためには、文化や芸術に若い時から触れておくことはとっても大切だということも改めて実感しておりますので、まだ言葉で十分その辺りが表現できておりません。そういったことを入れながら、そちらの思いが伝わるようにしていきたいなと思っています。ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございます。他にご意見ご質問等ございませんか。

(委員)

私もこの資料を郵送で送っていただいた時から見ているんですけど、この生涯学習基本計画っていうものは、最終的に真庭市民の皆さんが見られる計画になるので合ってますか。理念が「学びあい・つながりあい・互いに豊かに」の三つはすごく伝わりやすいと思うんですけど、目指す姿のところは、ちょっと長いなと私は思うんです。あと目標も、2つあったり3つあったりして、伝えたいものが、もっと子どもも見るものなのか、どういった人が、基本計画を見て、どのように動いていくのかにもよるんですけど、そういうときに関しても誰一人とり残さない計画になる、どなたが見ても分かりやすく、どなたが見ても理解しやすい計画がいいんじゃないかなという意見です。以上です。

(会長)

ありがたいご指摘だと思います。私も大学教員の端くれですけども、大学教員は、簡単なことを難しく作るのが、大学教員の仕事だとよく言われたりします。今言ったことで、なるほどだと思います。もちろん計画というのは、かなりのボリュームというか、冊子になると思いますので、全部どなたでも見ていくというのは、より具体的な取組になっていくと、少し難しいかもしれません。ただ、ダイジェスト版だとか、概要版みたいな形で、計画をするということになって、市民の方にも見てもらうということになってくると、理念だとか目指す姿というのは、もう少しシンプルだったり、キャッチーなものだったりでもいいんじゃないかと思っています。そういうことでよろしいですかね、今のご意見は。

(委員)

そのとおりです。

(会長)

この辺りは、いかがでしょうか。先ほど言いましたように、つつい難しくしてしまうので、私の意見は役に立たないと思いますが、高校生の皆さんはどうですか。この辺りで高校生のご意見を聞いてみたいと思います。

(高校生)

先ほど言われたように、私たち高校生や中学生、小学生が見るとなると、この理念を見た時に、一とおりで分かりやすく、目指す姿や目標を見ると難しいなと感じる人は多分いると思います。

(高校生)

先ほど言われたんですけども、やはり地域全体で、こういった計画の目指す姿というのを共有すべきであると思うので、小学校の時に朝礼で一週間の目標を決める時に、担任

の先生が「できるだけ分かりやすくしなさい」っていうふうに言われたんですけど、やはり、そういう感じで小学生にも分かりやすく、年寄りの人にも分かりやすいような計画っていうか、目標目指す姿だったら、より実現しやすくなるのではないかなと思いました。以上です。

(高校生)

僕は、反対の意見になるんですけど、僕が見た感じだと、すごいまとまっているんじゃないかと思います。これ以上短くしたりとか、少なくしてしまうと、逆に伝わりづらいんじゃないかなと感じました。以上です。

(高校生)

僕も他の人と同じで、もうちょっと文章が多いとかじゃなくて、小学生とかお年寄りの方にも分かりやすいように、端的にまとめてみた方が、いろんな方からも、文章が長いですとまず読まないと思います。文章をもうちょっと端的にした方が、いろんな方から見てもらえるんじゃないかなと思いました。以上です。

(高校生)

私も小学生とかに分かりやすいようにもう少し簡単にしてもいいんじゃないかなと意見を持ちました。今の目標でもしっかりしていて具体的だからいいとは思んですけど、小学生とか、あとお年寄りの方にも分かりやすいようにすることで、その市民一人一人の意識が上がると、目標が実現しやすくなるのかなと思いました。以上です。

(事務局)

以上で高校生。皆さん全員意見をいうことができました。

(会長)

ありがとうございます。高校生の方も率直な意見を言ってもらって大変ありがたく思います。先ほど私が言いましたように、大学の教員からすると、難しくないんじゃないかと思ってしまうんですけど、やっぱりそうでもないんだということを書いてくれたり、あるいは、これ以上短くするとかえって表現しにくいという意見もありました。

委員の皆さんどうでしょうか。これは、共生の視点から見ると、推進計画というのとはどなたを対象にしたというところが、なんですけど、もちろんさっき言ったように市民の方にダイジェスト版みたいな形にするのならば、私はこの計画の中への一部分をとってダイジェスト版みたいなものでお送りする。その際に、例えば、一つの案ですけど、この理念だとか姿だとかをこれ以上あんまり小学生でも分かるように容易にすると、今度は目標としての理念として、少しちょっと、言葉は悪いですが、幼稚な感じが出てしまうと思います。ただ少し分かりにくいというようなご意見は踏まえなければいけません。例えば、計

画の目指す姿はこうですけど、子どもたちにとっては、こんな生涯学習における目指す姿や目標を持ってほしいとか、大人の方はこういう風に持ってほしいとかっていうふうに少し、対象者を、こういう理念や目指す姿を踏まえて、子どもはこういうふうに、これを踏まえて、こんな目指す姿を理解してほしいとか、大人の方はこっちだとかいう風に、そんなふうなことを作ってみても面白いのかなという風に感じたりしました。この辺りはちょっと委員の皆さん方の中や行政の方々のご意見を踏まえなければいけないと思うんですけど。この理念や目指す姿というのは、最初の委員会の時に言いましたが、生涯学習ってどうしても幅広いんで、全部網羅するということになる、いろんなことを入れなきゃいけない。それは生涯学習のいい点でもあり悪い点でもある。今回真庭市の教育プランから提案いただいたものというのは、とってもですね生涯学習の今の課題だとか、大切なところというのは、すべて網羅されていると思います。そういう意味では理念や目指す姿っていうのは、概ね間違っていないとか捉えているんじゃないかと思います。ただ、受け取る側にとっては、難しい言葉もあったりということもありますので、この辺りをもう少し考えていく必要があるんだとか、あるいは、対象者によって少し目指す姿とか目標も、ダイジェスト版みたいなところで、分かりやすく説明するというのもあるかなと、これは手間になることかもしれませんが、そんなふうにも思ったりしました。事務局の方いかがでしょうか。今までの意見を踏まえて。

(事務局)

ありがとうございます。いろいろ考えを出していただいて、高校生の意見を聞いて確かに内容が難しいんだなという実感がおきました。他にも皆さんのいろいろなご意見をいただけたらと思います。

(委員)

私が感じたちょっと直感なので、こういうすごく重要な計画に携わることがないので、一市民としての、市民から見た単純な意見なんです。高校生の意見も教えていただけたし、先生のお話も聞いて、私の中ではすごく分かってきたというか、これ以上短くすると伝わりにくいと、他の人も言われたように、一生懸命事務局の方が考えてくださった素敵な計画だと思うんですよ。一市民で見た時に、達成していくためには、市民が関わってくる計画だと思うので、市民としての意見を述べただけなので、これを変えてくださいとか、そういう意味ではなく、簡単な意見で言ったんですけど、大きなことになってしまってますみません。短くしてくださいとかという意味ではなくて、基本計画というものが、誰に向けて推進していくものかというのが知りたかった、誰が一番伝えたいのか、誰を動かしたいのかを読んでいて思ったので、伝えただけなので、以上です。

(委員)

もう少し全体を分かりやすくするために、シンプルにいくというか、例えば目標のとこ

ろの2項目目。「地域資源を活用した学びの仕組み作りと地域とともにある学校づくり」というのは、ほとんど一緒ではないかと。「地域とともにある学校づくり」は、私はいらぬような気がします。それとその次の3項目目の「生涯学習を推進する基盤整備」と「切れ目のない学びの場づくり」も、「切れ目のない学びの場づくり」はいらぬではないかと。それぞれ3項目を2項目でいいかと。それから逆に、目標の2項目目、「地域資源を活用した学びの仕組みづくり」とあるのは、地域資源とは何かというのはもう少し入れた方がいいんじゃないかと。例えば、木と自然といった地域資源を生かしたとか、ちょっとだけ言葉を足すというのも、その方が分かりやすくなるのではないかなという気がします。項目はちょっと絞って、言葉は若干足してみたいな、そういう足し算引き算はどうでしょう。

(会長)

ありがとうございます。とてもいいご意見だと思います。事務局の方、先ほどの質問の方で推進計画は、誰のためにあるのかということについては、どのように捉えたらいいですかね。それによってですね。推進計画が、これはやっぱり生涯学習を実際に動かしていくってというような生涯学習を支援するに側に必要なことでしたら、少し文言が難しくろが、私はいけるんじゃないかと思ひます。ただ、推進計画はそういうものではなくて市民全般に見てほしいというんでしたら、やっぱり、少し言葉を整理するということもあると思ひます。両方それが目的だったら、使い分けが必要だったら、私がさっき言ひましたように、推進計画はこういう路線で行くけども、生涯学習を実際にする人、子どもたち大人たちの向けのメッセージだとか、ダイジェスト版というのはもう少し言葉を平易にしたりして、この計画をもとに、真庭市としての両方つくるんだとしたら、それもあるんだと思ひますけれど、推進計画そのものの読み手というのはどう捉えていったらいいのか、ここは重要な点だと思ひますけれど、この辺りいかがでしょうかね。

(事務局)

真庭市の課題は、全国的にかもしれませんが、いろんな講座を開催させていただいた中でも、直感的に感じるのは、わりと高齢の方が参加しているなと感じはしています。その中で、やはり高校生の皆さんもそうなんですけれど、若い世代の方が、非常に忙しくて、なかなか参加しづらいですとか、忙しいので無関心になってしまっているというのを、ある一定の層、若い年代の方にも感じる時があります。そういった方々に先ほどからお話に出ているような、いかにセンスのいい、そういったおしゃれなまちづくりで関心を持っていただくか、非常に大事なことだと思ひています。行政的には幅広く0歳から100歳までという言い方をしてしまうんですが、短期目標で言った場合、高齢の方には非常に関心を持っていただいている。そうすると若い世代の方に刺さるというか、キャッチな計画にしていけないとなかなか見ていただけないんだろと思ひています。ターゲットとしては、短期目標でいくと、中学生・高校生から若い年代の方々を一定のターゲットにはすべきかなとは感じています。

(事務局：次長)

高校生からもたくさんご意見いただきましてありがとうございました。課長から短期的なターゲットということで、今現在の生涯学習の参加状況という意味合いで説明をさせていただきました。小学生でも分かるような表現とか、高齢者でも分かりやすい表現と言いますか、そういうようなご指摘がありました。他の計画を策定する場面でも、同じようなご指摘をいただいたことがあります。ちょっと的がずれているかもしれませんが、一般的には中学生が読んでも分かるような文章・表現。なぜ中学生かというと、義務教育の対象は中学生までとなっています。中学生までが義務教育ですので、常用漢字というものが一つにあるんですけれども、中学生までに必要な常用漢字というのは全部習うんですね。そういった意味で、新聞も基本的には常用漢字で書かれています。文章として、難しく感じることは、我々でももちろんあるんですけれども、基本的には、中学生が読んでも分かるような文章。どのレベルに合わせるかというのは、いわゆる言い方もあるんですけれども、基本的には中学生が読んでも分かるような書き方を心がけているところです。

(会長)

ありがとうございます。私がお話しして伝えなかったのは、結局、教育と学習の違いでもあるんですよね。学校教育計画でしたら、教育する側にとっての計画ですから、これはやっぱり大人が読んだりとか、教育関係者が読むものですから、少し言葉が難しくても、私はいいんだと思います。あるいは生涯学習基本計画でしたら、生涯学習を推進する提供者や推進する支援する側の計画だったら、私は、あまりにも難しい言葉はいけませんけど、これは言い方が悪いですが子どもが読むものではなくて、推進する側が読む計画なんだと。ただ、学習計画となると、学習するのは子どもたちや大人個人ですから、その人たちが学習計画を作るのであれば、もう少し平易になると思います。私はこの推進計画とか計画というのは、計画する方が読むものではないかな。ダイジェスト版とかに分けて捉えることがありなんじゃないかという風に話をしたわけです。この辺りのところが、ちょっとコンセンサスというか、一致していないところだと思います。この辺りを事務局の方で、また整理していただいて、次回もう少し話をしていけたらなと思います。今すぐに答えは出ないというふうに思っています。皆さんがおっしゃったことってというのはよく分かります。また、誰が読み手なのか、これが推進する側だったらこれでもいいんじゃないかと、いやそうじゃないとしたらもうちょっと考えていかないといけない。そのことについてはまだ、ちょっと揺れています。もう少し、事務局の方で考えて作ってもらいたいなという風に思っています。

このことばかり議題にしてはいけませんので、私はこの挙げられた理念だとか、目指す方向性みたいなものは非常にいいものができあがっているんじゃないかと思います。先ほど、足し算したりとか引き算したりとかいうような、そういうことというのは、少し修正することは必要ですが、全体的な目指す姿というのは、大体カバーできているのではな

いかなと思います。ただ、それが、どういう人たちが読み手なんだということによって、それは変わってくるので、そこ辺りについては、少し事務局の方が、今すぐに答えることができなければですね、また次回までに検討してもらいたいなと思ってますけれども、いかがでしょうか。

(事務局)

ご指摘のことを受けまして、次回までにとというか、修正案を一度、直接送らせていただいて、次回の会議の時には、別の議論がしていただけるように、この部分の修正案という形で、文章的にやりとりをさせていただけたらと思いますので、そういう形でよろしかったでしょうか。

(会長)

それとやはり、結局誰が読み手というか、そういうところが答えられていないと思います。私が言うように、計画する側・支援する側なのか、それともより学習者に近い形での計画なのかというところをきちんと一致してほしいなと思います。

(委員)

どこに対象になるのか決まっていない状態なので、もし市民向けに出す機会があるということであれば、文字の文章量というか、分かりやすさイコール簡素化というわけでは無いと思うので、もし市民サイドに出す場面があるというふうな方向が定まったのであれば、デザイン面だったりとか、先ほどオシャレ感だったりとか、地域のブランドだったりだとか、といった意味も含めて、みんなに見てもらいたいものは、分かりやすさというのはいろんなことで表現できると思うので、必ずしも文章に直結しないと思うので、自分がちょっとそういう職業を絡めているというのもあるんですけども。デザインとかしっかり、いろんな人がいると思うんで、委託とかする方向もご検討いただければいいのではと思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございます。だんだん時間が無くなってきているんですけど、ここの文言のちょっと難しさだとか、修正というのは次回ということなんですけども、全体的な方向だとか、流れってということに関しては、いかがでしょうか。大体私はカバーできているんじゃないかと思うんですが、目指す方向というのは、今日一致できたと思うんですけど、その辺りはいかがでしょうか。もっと別な姿があるだとか、この辺が忘れていたとか、というふうなことがあれば、ですけど、この今挙げていただいていることとで概ねいいということでしたら、その方向で次回、提案いただくということにしたいと思いますがどうでしょうか。

(全員了承)

(会長)

はい、分かりましたありがとうございます。私もその現場にいないのでその雰囲気から分らず申し訳ないんですが、事務局で作っていただいたこの案に関して、全体的な方向性だとか、ということは概ねカバーしているのではないかと思います。言葉のことについてだとか、もう少し足してほしい、あるいは引いてほしいということについては、皆さん方の意見をいただきましたので、少し事務局の方で、次回、検討をいただくということで終えたいと思います。

長時間になりましたけれども、この部分はとっても大切なところですので、もう少し次回検討してみたいなと思っています。また案が出るとしますので、次回よろしく願います。

## (2) 目標に対する具体的な施策について

(会長)

それでは残された時間は短いんですけど、2番目の協議ということに関して、目標に対する具体的な方策ということなんですけれど、こういう理念や目指す姿をですね、実現するためには、具体的にどんなことができるのか、より具体的な取組だとか、施策とか方策っていうところなんだと思います。先ほど平田オリザ先生もですね、若者も戻ってくるまちづくりのために必要な生涯学習の役割と豊岡市の取組についてお話をいただきました。平田先生の話の流れもありますので、目標の目指す姿としては、関連することを考えると市民が学びの成果を生かして活躍することで、心豊かな暮らしの実現の目標だとか、あるいは2番目のですね、真庭を愛する心を育み、個人と地域・団体がついていう、この辺りの目標っていうことで、今日のお話のテーマにはつながっていくんじゃないかなと思います。一番上の目指す姿については、今日はやらなくてですね、3番目や2番目について、本当に時間が短いんですけど、今日平田先生のお話を聞いて、こんなことができたらいいのはというアイデアだけでも、皆さん方にご意見をいただけたらと思いますので、よろしく願います。いかがでしょうか。より具体的な方策や取組ということなんですけれど、何かこんなことが面白いんじゃないかということがあったらですね、少しご意見をいただけたらと思っています。どんなことでもいいですよ。

私は今日、平田オリザ先生から聞いて、なるほどなと思ったんですけど、生涯学習についてもそうなんです。生涯学習をする理由だとか、なぜあなたは生涯学習をしていますかとか、ってというような生涯学習をしている人に聞いて、そのメリットだとか、満足度とか関係の調査はあるんですけど、生涯学習をしない理由だとか、なぜ学ぶことができないんですかという阻害する要因について、研究ってあまりないんですよ。同じように今日平田先生のお話を聞いて私は思ったのは、帰ってくるまちづくりということで、どうやって帰ってこさせようかと、帰ってくることをばかりを考えているけど、なぜ帰ってこれないか、帰ってこれない理由というのをしっかり考えるということが大切だ

ということを知って、この辺り時差的だなと思ったんです。特にね、高校生の皆さんどうですか。帰って来なくなるまちづくり、とか戻ってくるとか、戻ってこれない理由なんかを含めて、何かこんなことがあったらですね、取組があったら戻って来やすくなるんじゃないかなとか、というようなこと、アイデアでもいいですので、若い人の話を聞いた方がいいかなと思います。高校生の皆さんどうですか。いずれ一端真庭を出るって人は多いかもしれませんが、こんなことを取り組んでくれたら、皆さんや次の皆さんの世代も帰ってこれるんじゃないかと、考えついてなんかアイデアというものはありますか。

(高校生)

真庭市生涯学習基本計画のキーワードで、高齢者と子どもと情報格差というのがあるんですけど、これに関連して、若い世代と高齢者の関わりが少なく、お互い壁をつくってしまっていて、スマホ教室を開くのがいいのかなと思いました。高齢者は今インターネットが普及して、複雑化しているので、その使い方とか僕のおじいちゃんとかおばあちゃんもそうなんですけど、悩んでいるので、そういうネットに詳しい若い世代、高校生も含めて、そのスマホ教室で、高校生は高齢者に話す機会を得てもらって、高齢者は若い世代からそのスマホの使い方を教えてもらうことによって、その関係というか、会話も生まれつながりを持つことができると思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございます。世代間交流というか、そういったことを積極的に取り組んだらどうかという意見、そういうときにスマホということで、高校生の方とか若者の方が教えることができる。これは若者にとってメリットって何がありますか。

(高校生)

若者にとってメリットとしては、高齢者とは挨拶とかは普段するくらいの関わりで、身内以外で話す機会というのは少ないので、高齢者、年配の方から学びを得ると言いますか、学習することで、自分たちの経験にもつながるのかと思います。以上です。

(会長)

ありがとうございます。他の方、その他なんかこんな取組、あるいは、戻ってくるためには、皆さん自身が若者ですから、こんなことがあったら戻ってきたいと、こんな取組があったらという、荒削りなアイデアでもいいですので、よろしくお願いします。

(高校生)

この会議をする上で、私なりに生涯学習について考えてみました。まず私が、生涯学習において重点を置いたのは、お互いが学び合うことだと思っています。先ほど言っていたように、高校生が高齢者に教えることへのメリットは、関わりが無いから関わることで、

地域の魅力にも気づけると思うメリットがあるし、高齢者からしたら、スマホで分からないけど、高齢者に教えることで分かる、お互いに学びあえるということ、重点に置いていました。

私は高校1年生から、真庭学習会に参加しているんですけど、また明日から始まるんですけど、その中で今、スペインから来た子がいます。高校には行っていない彼女がいるんですけど、海外から日本に来て、やっぱり学校とかでは勉強に遅れが出るから、真庭学習会で日本語を私たちが教えているんですけど、そういった海外から来た人は、多分彼女だけでは無いとされていて、真庭学習会でも幅を広げていくことで、海外の人に勉強を教えているということによって真庭市にいる、キーワードにもあるんですけど、外国人にやさしい施設ということで、この真庭学習会で、教えていることで、外国人と真庭の地域の人たちが、またつながれる機会や交流が、生涯学習の一部になっていくのかなと思いました。それがお互いにもいい、私が思ったのは、スペインから来た人に教えるのは初めてだったのですが、スペインから来た彼女も、日本語を私たちから教わっている、私たちも教えることを通じて学べるというお互いにメリットがあると思います。

(会長)

ありがとうございます。とっても皆さんの取組って立派な取組で、自分が高校生だった時に、こんなことを思っていたのかというと恥ずかしくなるような話題なんですけれど、少し優等生な感じがします。そういう言い方をしてはいけませんけど、皆さんは戻ってくるのかもしれませんが、他の若者が戻ってくるための、どんな施策が必要だと思いますか。どんな取組がいいと思いますか。今のはなんか若者がする側になっていて、それで若者が真庭市に戻ってくるかな。この辺りをね。次回までの高校生の宿題にしたいと思います。すみません教員の嗟嗟が出てしまいました。皆さんがこんな取組があったら、皆さんだけでなく、普通の高校生たちとか中学生たちとか、こんな取組があったら真庭を好きになって、将来いったん真庭から出るかもしれないけれど、子育てするなら真庭がいいなという戻ってこれるそんなことにするためには、どんな取組をしておくのだろうか。それはもちろん真庭学習会も大切だと思いますけど、その辺りを含めて、少しこれは高校生の皆さんに、次回の宿題にしたいと思います。また次回の時に少し意見を聞いてみたいと思います。もちろん委員の方々にも、ご意見をいただいて、次回、いろんなところでご意見をいただきたいと思います。これは本当に若者に直接ね、聞いた方がいいことじゃないかと思います。

すみせん9時までの会議ということ何で、こんな形で時間になってしまいました。ただ今日ですね、理念のところが目指す姿ってということに関しては、真庭市のこんな方向、目指していきたくてということに関しては、平田先生の話聞いて、大切な点は共有できたんじゃないかなと思ってます。計画自体のあり方をどうするか。これは基本計画なんで、少々難しくてもいいけど、ただ程度はありますけど。ということでしたらこのままだというのもありだと思ったり、いやいやもう少しですね、ダイジェスト版も分けて作っていかってというこ

ともあるでしょう。その辺りのことについてはもう少し事務局の方で、検討いただいて、次回に修正してもらいたいなと思っています。

具体的な取組に関しては、高校生に宿題という形にしてしまいましたけれど、今度は若者が戻ってきやすいまちにするためにはどんな取組が必要か、委員の皆さんにも、また検討してもらいたいなと思っています。次はもっと深まることが、特に2番目のことにはいきませんでしたけれど、時間になりましたので、また引き続き次回の協議にさせてもらいたいなと思っています。それでは3番目のその他というところですね。事務局の方よろしくをお願いします。

(事務局) ワークショップについて説明

(会長)

ありがとうございました。それでは協議については、これで終わりたいと思います。なかなか司会進行の不手際で、特に2番目のことについて議論が深まらなかったことはお詫びしたいなと思っています。それでは事務局の方に、お返ししたいと思いますのでよろしくをお願いいたします。

(事務局)

次回の第3回の会議ですが、11月を予定しております。日程等につきましては、まだ決まっていない状況なので、改めてご案内させていただきます。

## 5. 閉 会

(副会長)

今日は平田先生の最初の講演から始まって衝撃を受けたのですが、ちゃんとリサーチをした上で専門大学を設置をされた印象です。「まだそこがあいとったか」って感じです。昨日、生徒2人が用事があるからって校長室に来て、今日のアドバイスをしてくれてことで、あまりいいアドバイスはできなかつたんですけど、生涯学習について何があるのって聞かれずって考えたけどなかなかこうイメージできなかつたが、分からないことが分かったときの気持ちよさっていうんですかね。小学校でも中学校でも誰しものが経験している日常生活の中でモヤッとしてることがパツとはれたときのそういう爽快感ですかね。それを地域レベルでどんどんやっていけるのがいいのかなと考えてみたりもします。またモヤッとした話で恐縮なんですけど今日は皆さん長時間にわたりありがとうございました。次回お会いできるのをお楽しみにしております。

# 第3回真庭市生涯学習基本計画策定検討委員会 会議録

日時：令和3年11月30日（月）午後7時～9時

場所：真庭市役所本庁舎3階 会議室

出席者

委員：熊谷、池田、池田、大岩、小林、坂手、長谷、原、真壁

参画団体（真庭学習塾）：家元、岩野、金佐、坂、宮田

オブザーバー：津山教育事務所塚崎課長

## 1. 開会 進行：佐山課長

## 2. あいさつ 熊谷会長挨拶

皆さんこんばんは。前回の第2回の検討委員会では、私の方がオンラインでの参加ということで、色々ご不便をおかけしたと思います。今日はずいぶんコロナの方も落ち着いたということで伺いました。前回の平田オリザ先生の話を取り返してみると。専門職大学を作っているんですけど、よその真似をしているわけではないですね。豊岡市のこれまでの歴史や文化の中で真似をするんじゃなくて、自分たちのらしさをしっかりリサーチして、大学を作っているわけです。他の真似をするのではなく、真庭市の生涯基本計画も真庭市らしい計画にするため、うちの現状や課題を皆さんと一緒に考えていくことが大切ではないかと思っていますので、皆さんと議論を進めて参りました。皆様方には夜遅くからの参加で申し訳ないですけれども宜しくお願ひしたいと思っています。

## 3. 報告

第4次真庭市生涯学習基本計画ワークショップについて  
事務局より報告

## 4. 協議事項 司会進行：熊谷会長

- (1) 真庭市生涯学習基本計画の素案について
  - ・事務局より説明

(会長)

はいありがとうございます。只今事務局から説明がありました。計画の前半の部分で、これについてご意見等がございますでしょうか。不易不要のこともあります。

(事務局)

事務局から言葉の補足です。

「Society」…「1.0」が狩猟社会、「2.0」が農耕社会、「3.0」が工業社会、「4.0」が情報社会、「5.0」が創造社会、創造力の融合によって社会の課題を解決する。

「リカレント教育」…学校教育からいった離れたあとの職業などへ就職して、必要なタイミングで必要な教育を受けて、仕事と教育を繰り返す。学び直しができることをリカレント教育という。

「ICT」…インフォメーション、コミュニケーション、テクノロジー情報アクセス保存送信できるようにする、情報通信技術のことをいう。

「SDGs」についてはご存じの通りです。

(会長)

はいありがとうございます。他に分かりにくい言葉がありましたら。ご意見がないようでしたら、この前半部分は、これで進めていくということでしょうか。

それでは(2)の具体的な施策、個別・具体例について事務局より説明をお願いします。

・事務局より説明

(会長)

分かりやすく表で示してもらいました。皆さんからご意見をいただきたいと思います。

(委員)

各種支援団体等との連携による手話・要約筆記等の派遣がありますが、こういうことをやりたいということを踏まえるのか、この人たちがいる前提でのことなのでしょうか。

(会長)

提供もしていくし、生涯学習の成果を生かしてボランティアで関わってもらう循環ということになると思います。

(事務局)

講演会やイベントなどで、手話サークルなどの方に協力を得て、そういう方の活用を考えているということです。

(委員)

分かりやすくいいと思います。年間の成果について具体的に数字で表してくださっているのがチャレンジしやすいと思います。

(委員)

デジタルアーカイブ化というのは、具体的にどういうイメージなのか。誰もがアクセスできるようなものをイメージしているのか。図書館に行かなくても本が読めるようになるのかなとか。その辺りを伺いたい。

(事務局)

市民講座の様子を撮影しデジタル化して、多くの方に見ていただくような仕組みをしていきたいと思います。

(事務局)

図書館もデジタルサービスを行っています。いまずぐアーカイブ化はできませんが、今度、山中一揆のウィキペディアをしようと思っています。いろんな人から情報をあげてもらおうというようなことをします。将来的には、アーカイブ化ができたらと思います。

(委員)

その場にいけないような弱者の方への配慮、リモートとかしていただけるとありがたいのかなと思います。

(会長)

私から3点。1点目は、前半部分で個人の充実型、キャリア形成型、社会還元型などこういうように生涯学習は分類されるというのを後半部分にも使ってほしいなと思います。生涯学習は充電と放電という言い方をしますが、学んで充電して、それだけではなく、放電して還元していく。この部分は充電部分、この部分は放電部分とまんべんなく生涯学習の学びが整理されて支援ができることが、前半後半で示されていると分かりやすい。2点目は、地域学校協働本部はすでに設置されているので、取り組んでいるものはここに示していないと言われたのですが、折角取り組んでいるのでこれは拡大していきたいですね。この中に入れてもいいのではないかと思います。3点目は、生涯学習の複合化施設整備で場を整備することも大切ですが、その一方で施設の職員だとか、コーディネーターとか支援する人を輩出していくことが、大切で示してほしいなと思います。

(委員)

郷原漆器をやられています、後継者がいませんよね。発掘するというのも一つ重要な仕事かなと思います。シリゲは蒜山で小学校・中学校でしていますが、若者の中から後継者を発掘するというのも重要なことかなと思いました。市民大学制度で、真庭市の独自の単位認定をすると受ける側としては面白みがあるのかなと思います。講座資料のアーカイブ化で、みんなが発掘したことをウィキペディアにあげるとは素晴らしいです。古い書物などをPDF化して残しておくといいと思います。

(委員)

講座等へ参加したり、ボランティアで参画するとポイントが付与されるというのはいいことだなと思います。数値化も目安になるのでいいと思いました。生涯学習の中にスポーツ面もいくらかはいいのかなと思いました。大きな体育館があっても運動する人

口が少なくなっている。大人が行って体を動かすということがあまりない。スポ少にも子どもたちが入らないという現実。スポーツ面で体力、ひいては平均寿命を延ばすというようなところに向けてを生涯学習だけのことではないですが、進めていくことが大切だなと思いました。

(事務局)

スポーツ少年団のことも課題だと思います。体を動かしていく人口も少なくなっている課題も現状としてあります。推進しているのはもちろんなのですが、推進の計画については、生涯学習計画と同列としてできていて、昨年度、「スポーツ推進計画」としてできています。なのでこちらには書き上げていません。また、文化についても「文化芸術推進計画」ができています。一文として、別の推進計画にあげていきますと記したいと思います。

(会長)

どうしても重なり合うところがあるので、スポーツ推進や文化推進にも書いたけれど、それをするためには、生涯学習推進計画でこんなことを入れておかないといけないというものを考えてほしいと思います。スポ少の問題、中学校の部活の問題など、日々のスポーツも関係あるし、学校教育の部活動も関係する非常に幅広い。両方に記述することが出てくるかもしれません。

(委員)

生涯学習は幅が広いので、何でもすると分かりにくくなるので策定するというのは難しいなと思います。その上でいくつか。蒜山のかや刈りが盛り上がっていて、12月に中学生高校生全員と茅出荷組合が、180人ぐらいで茅を刈るというイベントが行われます。予算をいろんなことで流用できるという体制を作ってもらいたい。これを実行する時に実際にサポートさせていただいたら素晴らしいと思っています。子どもの居場所づくりですが、「子ども食堂」は、子どもたちの出会い、機会を作っていくことなのか、福祉的な意味で、貧困等の子どものためのためにやるのか、どちらのイメージでしょうか。

(事務局)

具体的施策として載せる中でも非常に迷いがありました。今回格差のない学びの場づくり、誰もが安心して学べる場づくりということでは、どういう環境にあっても学びだけはしていくというのが根底にありました。久世公民館活動推進委員会の中でも、子ども食堂をどうにかならないかと意見をいただきましたが、福祉の分野なので、実はなかなか手をだせられないように思っていました。子どもたちが苦しんでいるケースがあるのであれば、踏み込んだ方がいいのではないかとということで今回あげています。ただ仕組みは行政側だけではできない、ハードルが高い、福祉部門、もしくは民間の団体の力を借りない

とできないだろうと想定しています。10回というのは試験的にやるという意味合いもあります。ニーズがどれだけあるのか把握できていません。ニーズ把握と仲間作りをどれだけ拡大していかないといけないものなのか、福祉部門と連携していかないといけないと。学びと実践の場の一步として思っています。

(会長)

事務局の回答は福祉なので、居場所づくりは、教育の場でいうと放課後子ども教室をさすケースが多い。子ども食堂は、どちらかという福祉行政にあたる。どちらにしても放課後や土日の子どもを支援していくというのは重要な課題にあります。今の回答はどちらかという福祉よりかなと思います。

(委員)

地域教材リストの作成についてですが、50件というのはい多いのではないかと思います。

(事務局)

真庭市は広くて、振興局単位で集めていくと、5年間でこれくらいできるのではないかと考えまいした。

(委員)

交流定住課で作成しているものは、別名にしたいと思いますので、これは作りやすいようにしてください。未来づくりセンター等での特産品づくりの体験とあるんですが、体験という言葉が非常に難しい言葉なので、指標には、技術継承、人材育成を目的とした連続講座の開催と書いてあります。便宜上、職人さんを10として、初心者として1と考えていくと、この体験というのは、0~1、2、3を想定していて、3まで行った人には4、5、6と本当に職人になったりとか、そういった学校に通ったりするという奨学制度とか、一歩踏み込んだものをやらないと。学校でも郷原漆器の体験とかしていますが、そこで後継者育成ということであれば、連続講座を受けた人は、ここに入る時の奨学金を出すとかが行政的にないと。

(事務局)

率直に言うと、予算も何も無い中で、そこまで書き切るのは難しいなと思っています。関心を持った人が、将来的に職業になるのではと、続けたり専門的な学校へ行ったりと、将来的にあつたらいいなと思います。文化の伝承と人材を育成するというのは、竹細工等を踏まえて、非常に危機感を持っています。後継者がいなくなってしまう。技術や文化が途絶えてしまう。非常に危機感を持っています。一歩踏み込んで、奨学金などを出して、真庭からそういったところに勉強をしに行ってくださいというところまで書き切れたらよ

かったのですが。将来的には検討していきたいと思っています。

(委員)

0～1の体験はいろいろなところでやっていて、産業政策でも行っています。市民の「やりたい」ことを公募でを形にするというところで、他部署でも出て乱立していますので、そっちに出たアイデアもこっちに位置づけるとか、逆のパターンもあると思います。別の部署も流用できるとかできたらいいなと思います。縦割りなのは分かっていますが、調整できればありがたいと思います。生涯学習機能を有した複合化した施設整備と書いていますが、どういう施設ですか。

(事務局)

今老朽化している施設は一つの用途で立て直しをしないと方針が出ています。文化施設であっても、文化施設として立て直すのではなく、いろんな福祉的要素だとか、いろんな要素を入れた複合施設として立て直すという方針に沿って複合施設を想定しています。

(委員)

生涯学習推進委員というのは、どういった方でどんな雇用体制をとるのですか。

(事務局)

生涯学習推進委員は、様々な分野の方々の若い方に集まっていただいて、例えば、この計画の進捗状況などを確認してもらうとか、地域課題を把握してもらって、課題解決に向けて指導助言とかをいただいたり、市民主体の生涯学習を推進していくための指導助言をしてもらう。職員ではなく委員として謝金をうちながらと考えています。

(委員)

人と人をつなぎ、活動を支援するコーディネーターの配置、これも生涯学習指導員。指導員と推進員は違うということですね。これはどういう方を想定しているんですか。

(事務局)

生涯学習指導員ですが、社会教育主事を持っている方で地域の生涯学習活動を支援していくことを考えています。

(委員)

郷原漆器のことを言われていましたが、存在は大きいと思います。しかし、郷原漆器は風前の灯火で、継承者と話をする中で、後1年か2年でやめる。あそこも維持が難しいのではないかと思う。担い手が高齢化して、若い人が後継者にいない。継承者はまだ40代ですが、郷原漆器以外にやりたいことがあって、そっちに力を注ぎたいと。継承者が退か

れると、削る出す方を一手にしているの、たちまちできなくなるという状況にあるので、是非早急に考えていただきたい。塗りとかは、高齢の方ですが、複数いらっしゃるの、なんとかなるが、木地師の部分をなんとかしないと。

伺いたいのですが、津黒に木工関係の人がいらっしゃると思いますが、ああいう人が木地を共有するというのはできるんですか。

(委員)

郷原漆器が民芸のお椀だとするとできますが、工芸品のレベルだと、専門的な学校へ通って、7とか8の訓練を受けた人が、継承に入らないと無理だと思います。それがどのレベルなのかというのが難しいですね。

(委員)

個人的な意見としては、工芸品ではなく、元々民芸品としてのお椀なので、木工の好きなおっちゃんたちが木地を行い、塗りはおばあちゃんたちがやるという形であれば、当面続けられるのではないかなと思います。継承者は工芸を極める方向に行きつつあるんで、やりたいことと差ができてきたんだと思います。とりあえず後継者育成を是非考えていただきたいと思います。それから、荒木山古墳ですが、生涯学習課の協力の下に一般講座という形で、非破壊検査を行うことができました。そして、発掘することになりました。その発掘をするのに、土を運んだりするのは、北房文化遺産保存会がするんですが、若い人に協力をしてもらってやったらいいのかなと。具体的には、勝山高校や真庭高校の生徒さんにボランティアで参加していただけたらより心強いなと。どうでしょうか。

(委員)

ボランティアですから声かけをして人を集めることは可能だと思います。

(委員)

まにわくんが、新しい路線ができて、勝山と北房が結ばれるという。勝山から来やすくなる。それとは別に、北房には「ホタル交流館」という映像を映し出す施設が来春できます。真庭を愛するということであれば、知らないではなく、つながりを持って学ぶ、ホタルであり遺跡の発掘でありと。小学校の児童は土を運ぶのは無理かもしれませんが、遺跡の発掘はこうなんだというだけでも知ってもらったら広がりが出てくると思います。

未来づくりセンターは具体的にはどういうものなのでしょう。

(事務局)

健康推進機能や生涯学習機能や生産機能など多くの機能を複合して、地域活動の拠点になるようなものです。例としては二川地区で行われているものです。

(委員)

それは旧町村ごとに一つぐらいを想定なのですか。それとも、もっと広い範囲でですか。

(事務局)

小学校区にできればと考えているようです。

(委員)

公民館との違いは何になるんですか。

(事務局)

住民団体による自主運営されるのが前提になっています。施設は公の場でも民間の施設でも良いとされています。要件を満たしていれば、市が認定をするというものです。

(委員)

荒木山の発掘作業にはモデルがあって、今の美咲町、旧柵原町の月の輪古墳で、町民を巻き込んだ発掘でした。その発掘のモデルは、蒜山の四つ塚古墳の発掘です。この発掘は蒜山高校の高校生がものすごい活躍をして、地域ぐるみでやっていった。私たちはそれを目指しています。小中高校生に協力していただければありがたいなと思っています。

(委員)

ポイント制度のところでは質問があります。これはどのような仕組みを想定されているのか教えていただきたいです。

(事務局)

ポイントについては、健康ポイントがあったりしていて、それがベースになっています。そのポイント制度を拡充しようという流れがあって、それにうまくかぶせられたらなと思っています。具体的にはまだです。

(委員)

奈義町で町を挙げて、学校のボランティアに行ってもポイントがついて、奈義町で使える。紙ベースではなく。そこまで考えられているのかなと思いました。子ども食堂の件で、オレンジハートの方が、ときどきされていますが、すでにされている人に、行政も一緒にやっていくと成果がでやすと思います。真庭らしさを出すのであったら、郷原漆器のような失くしたくないものについては、補助金があるんだったら補助金で支援していくことなど、力を入れていけばいいのではないかと思います。

(委員)

生涯学習って、どのような方に参加してもらおうと思っているのですか。一主婦として参加させてもらって、学びたいとか何かしたいとか思わなかったら、来ないしやらないし、ほとんどのお母さんが働いている現状の中で、平日の夜、土日にどっかに出て行こうというのは、食事の支度をして準備をして大変の中で、学びたいと真庭市民の大人たちがどれくらい持っているのかなと思いました。それを踏まえた生涯学習、環境作りとかにしていけないといけないのではないかなと思いました。学びたいと思えない日々の生活に追われているので、講演会に行くのもあみだくじで決めたりとか、残念なことで、おじいちゃんおばあちゃんもいろんなことをしたいという状況なのかなあと。魅力的なプランであってほしいなと思います。

(会長)

どのように学ぶかという、どう捉えるかということになります。日々の学びも生涯学習と捉えている。行政の施策としてどこまで支援をしていくかということになるとどうしても見える形の学びになってくる。それに関連して、私から2点。いい意味でも悪い意味でも少し違和感があります。具体的な施策で真庭らしい固有名詞が出てきているのは真庭らしい特色です。ただ、具体的なものが出れば出るほど、エッジは効いているけれども、普通の他市町村の計画からいうと、公民館や図書館、博物館の計画を入れておいて、この具体的なことが出てくるのか、そこが抜きに今具体的なものが出ているのは、いい意味でも悪い意味でも違和感を感じます。どういう風に真庭市の推進計画を捉えたらいいのかなと。地域学校協働本部だとか、すでに動いているものは載せていないということになっているので、一般的にいうと公民館だとか図書館だとか、オーソドックスなのがあります。真庭市はそれがなくて、具体的で重点的なところにガツンときている。そういう形でいいのかなということを感じる。それでいいというのであればそれでいいでしょうし、基本的なことは残しつつ、真庭らしい具体的な施策をしていくのがいいのか。この辺り委員も含めて、事務局も検討してもらいたいなと思います。今のままだといい意味でも悪い意味でもちょっと違和感があります。

もう一つは、推進計画なので、どうしても具体的な細かいところまでは、計画なのでどうしても限界が出ます。重点的な大枠でやっていくということで仕方が無いところがあります。問題として計画は作ったけれど、全然進まないということはよくあることで、シンクタンクということがありますね。それに対してドウタンクという言葉があります。実際に活動するという人がネットワークを組んだ行動集団が、シンクタンクに対してできています。真庭市の推進計画を作ったら、計画だけ作るのではなくて、実践家が集まってやっていくということがないと、計画を作ったけれど動かなかったというようになる。先ほどのことは、ドウタンクのところで話してほしい内容なのかなと思います。是非この計画を作った後には、この分野には、真庭市の人たちが集まって実践を動かしていくというものを作ってほしい。そうしないと計画が絵に描いた餅になってしまう。

公民館だとか図書館などを推進計画に位置づけなくていいのか。事務局はどうでしょう。

(事務局)

先生のおっしゃるとおりです。人権に関すること、子育てに関すること、家庭教育があったり、地域学校協働本部があったり、もちろん公民館、図書館、博物館等、事業もそれぞれやっています。そういった日々の順調に進んでいるもの。社会教育法で守られているもの、そこに関してあえてふた書きする必要は無いのかなと思っています。5カ年の中で重点的に取り組んでいく、できていなかったことをやっていくことを念頭に、社会の要請、市民のニーズをつかみながら、そういった計画になればと思っています。その見える化をしているのが今の状態です。

(会長)

はい。ありがとうございました。今事務局が回答したことを、言語化して入れていってほしいと思います。そういう想いで推進計画を作ったのが分かるので。その部分がないと、基本的なところがどのように動いているかわからない。言語化していると、全体的に分かりやすくなる。

ここで、高校生に前回の宿題を聞きたいと思います。

(高校生)

真庭市の課題解決とか真庭市のいいところを伸ばすというのは、真庭市だけで何とかしようと思わないことが重要だと考えました。例えば、真庭市と津山市で、それぞれいい活動があるので、共有、交流をしていけばいい方向に向くのではないかなと思いました。共同で行うことで課題解決に向かうのではないかと考えました。そういうことで地域も活性化すると思うし、地域の方も参加していけば多様な人との関わりができ、生涯学習になっていくと思います。最終的に、子どもの頃から地域に関わったりとか交流したりすることで、真庭市の子も真庭市に郷土愛を持って成長していき、将来真庭市に住みたいかなという子どもが育ったり、自分が大人になって、子どもを持った時も真庭市で育てたいなという風になるのではと考えました。

(高校生)

勝山高校の3年生にアンケートをとりました。真庭市のいいところや真庭市にあったらいいなと思う施設だったり、これからどこで働こうと思っているかを記入してもらいました。娯楽施設や勉強施設が充実しているところがあつたらいいという意見が多かったです。真庭市のいいところは、自然が豊かなところや祭りでいろんな人が参加できたりという意見がありました。自分の就きたい職がこの真庭市に無いという意見もありました。真庭市の良さを生かした木だったり、川だったりそういう中で、真庭市にあつたらいいと思う施設を立ち上げることが大切なのかなと思って、例えば木の工作で地域の人たちと体験活動

をしたり、アクティブなスポーツをする施設がほしいという意見もありました。川とか自然を生かして体験をすることが大切なのかなと思いました。

(高校生)

真庭市の若者にステイとリターンしてもらうことに注目してみました。勝山高校には商業科と普通科がありますが、商業科の方が県北でずっと働きたいという割合が多く、理由として、商業科は販売実習とかで地域とつながったり、いろいろなイベントを経験していることで地域の魅力に気づいたりして、残りたいという思いが大きいと考察しました。普通科の生徒は、就きたい職業がないというのも原因と考えています。そこで、県北では空き家というものが問題とされていますが、空き家を改装して、仕事場にして、空き家をもっと活用して、就きたい仕事がないという人は、専門家の人たちと共同しながら企業を作っていくことで、真庭市になかった職業が生まれたりすることで活性化するのではないかと考えました。永住してもらうためにはこういう秘策が必要なんですけど、観光客をもっと集めるということを見ると、インスタグラムとかで、美術館に行って写真を撮ったりとか、目的で来る人がいると思うので、真庭市もそういった環境を作ってみるのもいいのかなと思いました。

(高校生)

都会にいつてみたいなと思ったことはありますが、東京に行った時に空気が重たいなと思いました。一度行って見て改めてふるさとの良さを感じることができると思うので、自由さのある地元で生涯を終えたいなと思います。地元の良さは外に出て改めて感じるということもあるので、一度出ることには賛成ですが、地元に戻ってくる若者が増えてほしいなと思います。

(会長)

ありがとうございました。実践になった時に高校生に活躍をしてほしいと思います。それでは事務局の方に、また、提案してほしいと思いますのでよろしくお願いいたします。それではいろんな意見がありました。それでは協議については、これで終わりたいと思います。

(津山教育事務所)

真庭のことを一生懸命考えられて素晴らしいなと思い聞かせてもらいました。計画については、拠点の公民館であったりは少し文書化できたらいいのかなと思いました。コミュニティ・スクールと地域学校協働本部が進んでいますので、その辺りを盛り込んでいただけるといいと思います。子どもたちが地域とつながって、そこから地域に戻って、広がりのあるようになるのではなるのかなと思います。今日来てよかったのは高校生の生の声が聞けてよかったです。

(事務局)

それでは、これで終了させていただきます。次回4回目の日程は、1月上旬に予定しています。

## 5. 閉 会

(副会長)

皆さん長時間お疲れ様でした。高校生の諸君ありがとうございました。生涯学習の中で、地域の伝統工芸の話が出て非常に貴重な分野で提言がありましたが、それを市として継承が応援できるというくらいかシルエットのようなものが見えたような気がしています。松尾芭蕉が奥の細道の月山・湯殿山というところで導き出した芸術の結論ですが。芸術の本質は、不易と流行で、不易というのは変わらないということで、流行というのは変わるといふことで、変わらない本質は、時代時代に応じて、その姿を変えてくるという結論を松尾芭蕉は山形で導き出したそうです。平行して、芸術の結論として、軽みというものを松尾芭蕉が出しています。軽みですね。重みの反対の軽みですね。非常に重たい内容の議論をしているんだけど、その奥に潜んででてくる軽みというものを今日ふと考えながら思っていたんですが、ちょっと知ったげにしゃべってみました。皆さん次回1月ということでまた宜しくお願いします。お疲れ様でした。

## 第4回真庭市生涯学習基本計画策定検討委員会 会議録

日時：令和4年1月11日（火）午後7時～9時

場所：真庭市役所本庁舎3階 会議室

出席者

委員：池田、池田、大岩、金定、坂手、長谷、原、真壁

リモート参加：熊谷

参画団体（真庭学習塾）：家元、坂

1. 開 会 進行：佐山課長

2. あいさつ

（会長）

皆さんこんばんは。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。今日は最後の会議ということで、本来ならそちらに伺うのが一番いいんですが。今週末の入試の準備や新型コロナの変異株のこともありますし、私の車は冬用タイヤにしていなくて、そちらへ伺うというのが難しく、大事を取ってリモートということでさせていただきました。リモートの進行でご不便をおかけすると思いますが、皆さんにご協力をいただき進めていきたいと思いますので、何卒宜しくお願いしたいと思います。

それでは今日で最後ということで、いっぱい協議事項があります。早速進めさせていただきたいと思います。それでは宜しくお願いします。

3. 協議事項 司会進行：熊谷会長

（1）真庭市生涯学習基本計画の素案について

・事務局より説明

（会長）

ありがとうございました。事務局から前半部分の説明がありました。大きくは前回と変更はありませんが、現在の取組も入れ込むようになっています。その当たりが追加されています。その当たりを含め、ご意見等がございますでしょうか。

細かいところですが、8ページの地域協働活動の推進のところ、これは、「地域学校協働活動」に修正してください。皆さん方いかがですか。

（委員）

1ページ目の1計画策定の趣旨の3段目の「こうしたことから、市民一人ひとりが」のところ「できます」というのがひらがなが気になって、漢字になってもいいのかなと思います。もう2点は、「多彩な真庭の豊かな生き生きとした」ところで、「多彩な真庭で」なのか、伝わりにくいのかと、「知るよろこび」があえてひらがなで喜びなのか、少し気に

なりました。

(会長)

はいありがとうございました。事務局この3点いかがですか。意図的にひらがなという場合があると思いますが。

(事務局)

漢字の表記については、優しい言い回しになるのかと思いひらがなを使用していますが、漢字の方がしまってくる場合もあります。その辺は検討します。

(会長)

確かにひらがなにすることで柔らかくすることができます。どちらかに統一して記述してもらえたらと思います。

(委員)

人権教育ですが、多様化している人権問題の「女性や障がいのある人、高齢者、外国人、LGBTQ、インターネットによる人権侵害」の順番だったり、枠組みに意味を持たせてしまいう気がしていて、細かいですが、変えてもいいのかなと思いました。少し違和感があったので。

(会長)

具体的にはどのような並びがということですか。

(委員)

福祉という点では、障がい者・高齢者が一緒になることが多いというイメージです。女性や障がいのある人はジャンルは違うのかなと思う。少し雑な印象を受けました。

(会長)

ありがとうございます。「や」でつながっているので、それぞれが並列なのだと。その中でも順番がどうなのかと。その辺りを確認してください。

(委員)

最終的には、第3者が見てくださるのか。てにをはを一つ一つ見ていくのか。例えば「いきいき」とかも「生」でいいのか、「活」でいいのか。文章的なところは誰かが見てくれるのかなあと思ったのですが。文章の中身は、ここで最終決定になるのですか。

(会長)

まずは我々でできるところまでやっていくことになります。ただ行政文書なので、微調整して、事務局と私で確認していきます。

(委員)

スポーツの令和元年度「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果と次の6の所のアンケートは、令和2年度。出所は違うけど、統一はしないのですか。去年はコロナで余りやっていない状況での結果で、余り影響がないのかなと感じました。したくてもできなかった人が、2年の時にはいたのかどうかも踏まえて、このデータと比較していいのかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。事務局の方、いかがでしょうか。

(事務局)

スポーツと芸術・文化、それぞれの推進計画を策定したものになっています。言われたとおりで、2年度については、コロナ禍でやりにくい状況があったので、いくらか反映されている場合があると思われます。

(委員)

用語解説がありますが、最初に言葉が出てきた時に、下に※で用語説明があるというのが、アンダーライン等あれば、見やすいのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。その辺りの用語説明、用語解説については、注をつけたりして、読みやすくするように事務局の方をお願いしたいと思います。

(委員)

公民館についての記述ですが、新しく加わったということで、力を入れているのがよく分かります。実態を考えた時に、月田・富原は公民館が身近なもので、活発な活動をしています。他はよく分からないですが、公民館がすぐ近くにあるというのはそうでもないのかなと。老朽化や再編で、今後の見通しとしてどうなのか。久世公民館は具体的に書いてあるのですが。地域格差がないようにするというのも触れてあるといいのかなと思いました。

(会長)

ご指摘、ありがとうございます。公民館と一口に言っても、様々です。現状も表記して

ほしいということですね。事務局いかがですか。

(事務局)

公民館については、老朽化したものについては複合化していくという方針があります。実情は地域で違ってきますので、地域の方と話をし、どういう形が地域にとっていいのか、一緒になって考えながら進めていくように思っています。

(会長)

ここは新しく追加された部分で、公民館の現状と今後のあり方をしっかり考えていかないといけない。とっても大切なことです。私の方から気になるのは、第2段落の「館長含め行政職員が兼務かつ直営で事業を実施してきており、必ずしも本来の住民自治機能を発揮していませんでした。」これってどうですかね。兼務しているから住民自治機能が発揮できていないということですか。直営は悪いイメージでは使っていないですね。この辺りの文書をもう少し慎重に書いた方がいいと思います。検討していただけたらと思います。

(事務局)

はい。反省にたったの文章です。他地域とは違っていました。どうしても行政主導になりがちでした。もう一度整理したいと思います。

(事務局) 後半部分の説明

(会長)

情報格差についてどうすればよいか。解消に向けての取組だとか。あれば追加したいということですがいかがでしょう。

(委員)

確認ですが、情報格差は、SNS・インターネットの情報発信ができていての格差ということでもいいですか。

(会長)

事務局、今のご指摘どうですか。

(事務局)

真庭市でもイベントなどを開催する場合に、告知放送とかホームページとかで情報を発信しているつもりではありますが、届けたい人に届かないという事があります。そのあたりでもご意見をください。

(会長)

世間一般に情報格差をということでもいいですし、真庭市におけるということでもいいので、行政の情報が届かないということでも。いかがでしょうか。

(委員)

真庭市ですが、年齢が上がると告知放送とか情報誌の情報を取ってきてくれる人とか、気に掛けてくれる人が多いですが、若者はそもそもそういうのは見ない聞かない人が多いと思うので、若者に対しての情報発信は、形を変えたり、高校生がターゲットだったら高校にチラシを置く等の対応があるといいなと思いました。

(会長)

ありがとうございました。対象者別にメディアを示す。活字ではない世代にはそれにあったものを行うことがありますが、時代の流れが、スマホやパソコンなどになってきている。そんな中での高齢者や、情報格差の改善がよく出てくる問題です。なかなかこうすれば改善できる特効薬はありませんが。

(委員)

2つの捉え方があって、一つは適切な媒体で適切な情報が流れることともう一つはスキルの問題の側面があると思います。60・70代の方まではスマホを使っていますが、ただ使っても情報に届くことが難しい。スマホを使わない人は、文字の媒体が効果的になる。届けたい人に届く、真庭市もSNSの媒体、インスタも市の単位としてはフォロワー数は多いのかなと。高校生とかはツイッターとか思いつきですが、真庭市独自のSNSを作ってそこでの交流が生まれる仕組みがあれば、友たちを招待していくような、口コミで広げて、そこに情報を取りにいけば何でもあるシステム媒体があったらいいなと思う。

(会長)

私なりに解釈すると、2つ方策があって、一つは情報化社会の中でSNSなどのスキル。生涯学習は大人や高齢者が学びに参加するケースが多くて、なかなか若者の学びに届いてこなかったケースが実態としてある。若い世代に対しては、SNS等を活用した情報提供に積極的に取り組んでいく。もう一つは、スキルの問題でそれに対応できない人もいるので、公民館等で、そうしたスキル等をスマホの使い方など学ぶ学習を展開したり、あるいは若者と高齢者の交流で、若者が高齢者に教えたりする中で、スマホの扱いを学んだりする取組などを展開していく。この2つが大切なのかなと思いました。皆さん方いかがでしょうか。事務局の方、どうでしょうか。

(事務局)

良いご意見をいただきました。市外の情報のアドバイスもいただけたらと思います。

(委員)

勝央には、「勝央ナビ」というアプリがあって、有線放送は家にいないと聴けないけど、アプリの中に、「今日の情報」という、ゴミの収集やお悔やみ、有線で流れる内容が送られてきます。うちの母親も夜になったらそれを見ています。ですので、もちろん私も見ていますし、若い方だけではなくて、見える方法さえ伝え、アプリさえ入れておけば、決まった時間になったらアラームが鳴るというようになっているので、そういった仕組みもいいなと思います。ボランティアポイントみたいな事も書いていただいていたので、これとリンクさせていけばもっと市民の皆さんが活用するアプリになるのではと思います。

(会長)

SNS などアプリを真庭市も取り入れて、取り組んでいってほしいということです。その辺りを含めて、記述してもらいたいと思います。それでは情報格差のところではない、それぞれ気になったところをあげて、ご意見をいただけたらと思います。

(高校生)

19 ページの2の所ですが、CAPD サイクルになっていますが、下の図ではPDCA サイクルと書いてあって、CAPD サイクルだとこの図とあわないと、矢印も逆になると思います。何か狙いがあったのか分かりませんが、その辺を聞きたかったです。

(事務局)

感心して聞いていました。これはよくご指摘いただくところで、本来はPDCA だと思いますが、真庭市の場合は、総合戦略の辺りから、すべてCAPD になっていて、真庭市独自でやっているものです。もう一度、総合政策部と精査させていただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。私の方からも、重点方策とか重点施策で色々あげられていますが、内容的には、重点施策の中を、ドッキングとか協同が大切ではないかと。そうしないと重点施策がかなりあって、これだけできるのかとなってしまうがちです。関連する重点施策は連動させながら取り組む。例えば、13 ページの「ユニバーサルデザイン等の推進」と14 ページの格差のない学びの場づくりの「使いやすい施設等を整備」は結局同じような事ですね。ドッキングとか連動とかしたらスリム化させてもいいのかなと思います。「子どもの居場所づくり」の食事を提供するというのと「地域の食材を活用した郷育の推進」の学びも連動して取り組むことができる。

もう一点、市民大学という点で、真庭市は大学がないということで、市民大学を立ち上げるというのは評価できますが、市民大学を巡る連動というか、方向性として、有名な方呼んで専門的なことを聞くという形で展開されてきました。これも重要ですが、今の市民大学の方向性としては、教育者や提供者がいて、学習者に学びを提供するというだけで

はなく、市民自らが学びを提供したり、市民自らが講師になって、学習者同士で学び合っていく市民大学の方向性が来ているのではと思います。市民大学の中身ですが、講師が来て教えてもらうだけではなくて、自分たちが教えたり教えられたりして、真庭市の中で学ぶ。そういった市民大学のあり方が大切です。岡山県であれば西粟倉村で若い編入組が増えていき、その人たちが、身近なワークショップのようなものを自分たちで提供して、参加者同士で学びあったりしています。大学とつくると非常に高度で、講師がいて、承り学習のイメージですが。市民同士が学び合えるそんな真庭市らしい市民大学の方向を検討してほしいと思います。

#### (事務局)

市民大学のところで、ここに書き込めていないことがあります。今現在やっていることがあって、姫新線や高瀬舟を題材にした講座とか、市民の方に講師になってもらってやっていることもあります。それも継続して、市民大学の一つとしてやっていきたいと思いません。

#### (会長)

そういういい取組があるのなら、市民大学に市民講師が来て教えてくれるパターンもあれば、真庭市の市民の中から学びあったりできる仕掛けが。真庭市の市民大学として生かして行ってほしいです。最近では、情報格差のこともありました。オンライン公民館という取組も増えていて、久留米市でスタートしています。「久留米オンライン公民館」がきっかけで、いろんな所で広がって、今は全国的な協議会ができています。コロナ禍もあって、施設ではなくてオンライン上で、教えたり教えられたりする。先ほどの情報と絡めて、オンラインで市民大学なんかも面白いんじゃないかなと思います。

#### (委員)

18 ページのオの大学との連携は、市民大学だけのことなのか、もし違うのであれば、大学の学びに対して具体性がなさ過ぎると思いました。大学等と連携しては、まだ決まっていないのかなと。もう少し方向性だけでも書いておくと期待感が高まるのかなと思いました。

#### (会長)

大学の固有名詞をあげてほしいということですかね。私の一存では決めていいのか迷いますが、地元の国立大学なので、岡山大学を名前を入れていただいて、岡大の先生がオンラインという形で講演すれば、オンラインの大学ということになるので、これは他県の大学でもできますが、入れていただいてもいいのかなと思います。事務局のご意見を踏まえて。

(事務局)

是非とも具体的な名前があったらすごくありがたいかなと思います。岡山大学の名前も入れさせてもらえたらと思います。

(会長)

「等」と入れて下さったら大丈夫だと思います。教育学部の先生であれば、私がおつなぎする事ができます。教育学部はミ二総合大学なので、文系から理系まで幅広くあり揃っているのです。その他よろしいですか。

(委員)

今話に出ていた 18 ページのオの大学との連携などから講座を実施は、例えば、市民 5 人が文書に書いて、オンラインに申し込めば、講師を呼ぶのにいくらの予算が下りてなど、公募制の予算額があれば、主体性を持って市民が学びやすいんではないかと思いました。

(会長)

自分たちで講師を呼ぶ時に、こういうルール・仕組みがあったら呼びやすい。あるいは講師を呼ばなくても、自分たちでできるという風な市民大学の運営のあり方があったら。これは市民大学の設立の時にしっかり考えていかなくてはいけないところです。さっきご指摘があったようなことは、具体的に書けないことですが、事務局いかがですか。

(事務局)

予算的なことについては、難しいところですので、もう少し検討させてください。できることは頑張って実現していきたいと思います。

(会長)

市民大学のあり方を進めていかないといけないと思います。予算事があるとはっきりと文面では書けないというところはあると思います。書き方は事務局で検討してください。今の方向性からいうと、教えてもらうだけではなくて、自分たちで動いていたりとか、自分たちで講師を呼べたりとか、市民の主導的な大学のあり方も目指していくということは、共通するところです。

(委員)

質問ですが、14 ページの 3 の地域資源を活用した学びの仕組みづくりのア地域教材リストの作成とあるんですが、年 10 件。活用する場面というのは、オにつながるのですか。教育を支援するために作成するのですか。活用方法とかを教えてください。

(会長)

もう少しご説明をということですが、事務局いかがでしょうか。

(事務局)

ここはとても大切にしているところです。前回もこんなことができるよと言われたところです。何に使うかということでは、教育関係に出てくると思います。課題に思っていることは、17 ページのアの「就学前の子どもから高校生まで郷育等を核にした地域学の実施」で、なかなか真庭にしながら真庭のことが学べない、体験の場がない、という声を聞きます。保育園・幼稚園など自然体験ができにくいと。そんな中でいろんな体験を、真庭の良さとかを知ってもらいたいと。就学前から高校生まで、横串を刺して、郷育として学べる機会を創出したいという狙いもあって、リスト化できればと考えています。一つの切り口にしたいと思っています。

(委員)

一般の方向けというよりかは、教育を開催するにあたる資料というイメージでしょうか。

(事務局)

そうです。しかし、それを活用することによって、大人の方にも学びの場になると考えています。期待もしています。

(委員)

15 ページの「実線」が「実践」の間違いだと思います。16 ページのウのツバメ方式の所の「真庭学習会」は正式な名称としては、「真庭学習塾」「真庭学習会」どちらなのかはっきりさせてほしいと思います。17 ページの一番下の部分「貫的な地域」これは言葉が抜けているのか、打ち間違えか。また教えてください。最後に6の17 ページの切れ目のない学びの場づくりということで、高校のことを書いていただいております。明確に、2 高校が存在すると思うので、「市内の2 高校」という書き方をさせていただくと明確になっていいのかなと思います。コミュニティ化していませんので、学びの場づくりを行いますのところは、サポート的に援助します。とかに変わるのかなと感じます。

(会長)

事務局いかがでしょうか。

(事務局)

ご指摘の所を修正していきたいと思います。

(委員)

ドゥタンクという言葉が入っていたと思います。実行される時の一緒にやれる団体になりたいなと思いながら話を聞きました。地域教材リストにしても具体的な話があると分かりやすいと思うので、話題提供的にいうと、私は中和地区の600人の所に住んでいます。十数世帯だけがまだ、こけら寿司の中でも「シイラ」を使ったこけら寿司を作っています。倉吉に「シイラ」を塩漬けにする手作業をまだしているおじいちゃんがいる、一般的にこけら寿司も鯖寿司に変わっています。これはどっちがオリジナルなのかと。文化として、すごく面白いですね。実際に倉吉に行って、加工したものを持ってくるというのを地域のおじちゃんたちがやっている。それを地域のおばちゃんたちが、祭りの日になると買って、各家庭で作っている。そういうものが、教材リストに載るのかなと思います。それをどう活用するのかという、この教材面白そうだという時に、5人の連名で依頼を出せば、講師が来てくれるようにするとか、そういう仕組みづくりとか、学校の授業とか、依頼ができるとか、何かそんな感じの使い方ができたらと思っています。蒜山で茅があります。地元の茅葺きの古民家は教材としては価値が高い。そこでみんなで刈った茅です。中学生・高校生と一緒に地域の人が活動する。刈った茅を使えたらいいなと思う。

福王寺の本堂は文化財らしいですね。茅葺きの本堂の中が文化財があってそれを守っているということで、本堂も文化財に準ずるという扱い。そういうものを地域教材にすると。みんなで茅を刈ろうとか。茅葺きの講座を受けてみたいとか。みんなでこれを守っていきなとか。そういう風に老若男女、切れ目のない社会教育でも家庭教育でも学校教育でも何でもいい。そういうときに、上手に補助が出るという、実現するためのきっかけになるような予算組みができたらいいなと思います。

(会長)

前半の所は、重点的な施策を連動させて、学びを深めていく。連動性を重視しますと。そんな形で書いてくれたらと思います。例えば例示があるといいのかなと。後半の部分は事務局の方でお願いします。

(事務局)

派遣とか補助のようなことは考えています。予算が付いてない段階ですので、言いにくいですが、派遣できる支援は考えています。その辺りが15ページの中段の所にあげています。先ほどの50万円のところをもう一度お願いします。

(委員)

市民10人が連名で依頼を出せば、用途や目的に関係なく、いろんな講師の方が来てもらえる50万円の補助が出るとしましょう。10人で50万円が1年間あるとすると、みんなが手をあげると50万円使い切ってしまう。でも、運用率は半分だから、25万円しか使用されなかったとか。そんな予算組みでも問題ないのか。

(事務局)

補助金の性質上、用途がはっきりして、何らかの目的がないと、何でもいいというのは難しいと思います。ただ、交流定住推進課の補助金が柔軟にターゲットを絞って、自由度があるのかなと。全てを把握していませんが、色々問合せしていただくと、いろんな補助があると思います。

(会長)

よろしいですか。その他いかがでしょうか。

(委員)

全体的に、同じような文面が多いと思うので、まとめられるところはまとめていった方がいいと思うんですが、なかなか難しのかなと。どうしてまとめにくいのかなと思ったときに、目指す目標のところに、市民が頑張るところが重要視されていますが、市民の立場でこの重点施策を読むと、どれを頑張ればいいのかと。「誰でも学べる場づくり」で割合を上げるのは、市だと思うので、ユニバーサルデザインを下さるのも市です。市民が実際どれを頑張ろうと思った時に見ていくとあまりなくて、受け身の施策になっているような気がします。主体的に市民がするのが4のところ、この中でも工の市民大学の創出でも「まにわ市民大学」を立ち上げとあるんですが、主語がないので、どなたが立ち上げられるのかわからない、市民なのか、市なのか、他にも主語がある文と。誰が、どうするということ、重点施策なので分かりやすくしていく方がいいのかなと思いました。

(会長)

大切なご指摘です。主人公は、市民であり、学習者です。行政がサポートしていくという関係です。その中でも行政的にソフト面やハード面で様々な支援を行うという行政が主語になっていく事が多いと思います。住民の方が促すというような表現で、主語だとか、市民だとか分かるようにしてくれたら有難いと。もっと分かりやすくなるのではないかと。というご指摘です。この辺り事務局いかがですか。

(事務局)

ご指摘のとおりです。もう少し具体的なことを入れていきたいと思います。

(会長)

基本的に言えば、学習者が主人公ですが、推進計画なので、行政としてどう推進していくか。という文面になっていくと思います。そういう中でも学習者として、こういうところが大切ですとか。こういう風に意識しないといけませんよとか。という表現になってくるのかなと思います。その辺り大切なご指摘です。もう少し事務局の方もそういう観点から確認してもらえたらなと思います。その他いかがでしょうか。

(高校生)

21ページの中文。Society5.0の説明なんですけれど、Society5.0が、「未来社会」ということなんですかね。未来社会だと今後ずっと5.0が未来社会になっていって、例えば今から50年後をSociety5.0だとすると、その50年後になっても未来社会になってしまうので、今あったのが、超スマート社会だったと思うので、Society5.0はそっちに変えた方がいいのではと思います。

(会長)

Society5.0の説明とか、より適切なものを解説で入れてもらえたらと思います。ただ余り長くなると、解説しにくくなるし、数行で説明も難しいかもしれませんが。国の文章等を参考に、適切な解説で位置づけてもらえたらと思います。

(委員)

基本的にこの生涯学習基本計画は、生涯学習課さんが中心になってされていると思いますが、学校現場で関わりがあるところはどこかなと考えています。地域学習に関わる部分などは、学校は非常に関係が深いところだと思っています。教育委員会も学校教育課があり教育総務課があるというところで、どの辺りがどこがするのかという辺りは実際の運用の場面で考えてみると、学校教育課に関わりがあって。施設については教育総務課だったりするんですが、生涯学習課の方にもしっかりアプローチをしていけばいいなと考えています。いろんな案内をいただいたりする保護者向けのものとかは、生涯学習課にお世話になっているんですが、学校の教育に関わる実際の地域学習あたりで、この辺のリストがきちんとできてくると、活用もしやすくなるのかなと思います。

感想ですが、SDGsがここに入ってきているのは分かりやすいなあと。彩りもよく。学校現場も色々動いています。子どもたちの意識も、大人の方も高まってきているのかと思うので、目にする機会が増えるのはいいことかなと思います。

(会長)

ご指摘ありがたいと思います。生涯学習基本計画って難しいですよ。理論的なことを厳密にいうと、生涯学習の中に、学校教育も家庭教育も社会教育も含まれているので、教育振興計画よりも、生涯学習計画の方が上位概念であると理論的には正しいんです。生涯学習は教育だけではなくて、学習の方が広い概念です。教育振興計画というよりも生涯学習の方が、概念的には、上位なんですけど、行政上どうしても生涯学習が社会教育的に扱われているので、その辺で、ちょっとひっくり返っているところがあります。

委員の方にご熱心にご協議いただいて、いろんな角度からご指摘いただきました。このあと事務局の方で検討していったほしいと思います。連動性のあるものはつなげて、方向性を示したり、スリム化を図ったりして。重点施策といっても返って、実施するのが大変だとなったらいけないので。2・3例示があると具体性があっていいかなと思います。色々

言いましたので、後日メール等で、委員の皆さんには、検討したり確認してもらったりするようになると思います。皆さんに集まるということは、今回が最後になります。最終調整は、会長に一任ということで勧めさせていただけたらと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(全員) 異議無し

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございました。今後会長と、最終的な確認をいしていきたいと思います。今年度中に仕上げていきたいと思います。

三ツ教育長より 御礼の挨拶

一番最後の会と言うことで、一言御礼を言わせていただけたらと思います。本当に4回の期間、委員の皆さんには終始熱心にご討議していただきましてありがとうございます。心より御礼を申し上げます。本当に多様な意見をいただきました。生涯学習というのは、先程のお話にもありましたが、基根本を言えば、やっぱり一人ひとりが、豊かに生きていく土台を作っていくものだと思っています。そのために、全ての人が平等に参加できる流れを作っていくんじゃないかと。これがやっぱり基本なんだろうと思うんです。学んだことはやっぱり活かして活躍できる機会を作っていくんじゃないかと。これが基根本だと思っています。そうしたことを実際に具体的に進めていく上では、いろんな困難はあると思うんですが、今回委員の皆さんにご審議いただいた内容を盛り込みながら、計画ができ上がっていけばいいなと願っているところであります。

高校生の皆さんも来て下さっているので、一つだけエピソードというか、先輩の話をさせてください。真庭学習塾を立ち上げた子たちが、子たちと言ったら失礼かな。今年成人なんですよ。その中の一人が、大学で地域創造を勉強しているそうで、そこで学んだことを活かして、学生団体を立ち上げて、小学生を対象に勉強を教えたり、スポーツやレクレーションをしたりしているそうです。最初は市役所に話を持って行って、大人たちと一緒にやったんだけど、今度は大学生が仲間を増やして自走したいと。今はクラウドハンティングをして資金集めをしています。自分が勉強したことが社会へ還元したいと。そこで人がいっぱいつながって行って学ぶ。そこで、自分らしさを発揮できるというのは自分にとっても豊かなことと話をしていました。生涯学習と関わるかどうか分からないですが、あらゆる場所でしっかり、学びの機会があって、学んだことは活かして、活躍できる出番がある。そういうことを真庭市でも目指していけたらいいなと感じています。この中にもありましたけれども、共生社会基本方針というのができています。共生という姿を真庭市は、人が一人ひとり幸せに生きていく。それを応援し合うということが、真庭市の目指す共生の姿なんだと書いています。幸せの形というのは一人ひとり別々なんですよ。それをそれぞれが考え、描き。実現していくのをみんなで応援し合う。その幸せの可能性は、学ぶ

ということ。生涯学習なんだと思っています。ご意見いただいたことを基にしながら、いい計画に仕上がっていけばいいなと思っています。

最後になりましたけれども、様々な意見をまとめて下さって、この会の進行を、落ち着きどころを探ってくれた熊谷先生には、本当に感謝をしております。どうもありがとうございます。余計なことを言ったので長くなりましたけれども、寒くなっています。お帰りの際には十分気をつけて帰ってください。長い時間ありがとうございました。

## 5. 閉 会

(副会長)

委員の皆さん方、このご縁でお知り合いになれて、本当にありがとうございました。今日は勝山高校は始業式でありました。私の話は短いが取り得なので、ぱらぱらっと要点だけ言って、生徒に考えさせるようにしています。2つ言いました。一つは私が友達から言ってもらったことで、「ずっと試験というのは受けようらにゃいけんよ」と。教頭試験を受ける時に相談したらそういうアドバイスがあって、「人間はずっと試験を受けて試されていないといけんよ」と、親友から言ってもらいました。もう一つは、久世高校の校長で退職された先生がおられるんですが、その先生が言われていたことで、「人間は年齢に応じて必ず負荷を受ける。負荷も掛からずに生きているのは何もならない」と言われました。ということを生徒に伝えました。ただ本質は、平安時代の終わりに今様といった歌が流行って、その代表格「梁塵秘抄」がまとめられているんですが、『遊びをせんと生まれけむ 戯れせんとや生まれけん 遊ぶ子どもの声きけば 我が身さえこそ動がれる』非常に日本を代表する名文だったんですね。遊ぶためにはものを知らないといけないし、大酒を飲んでひっくり返って二日酔いになるためには、健康でないといけないわけです。そういうところを大事にしながら、真庭市をしっかり盛り上げていこうと思います。長くなりました本当にありがとうございました。